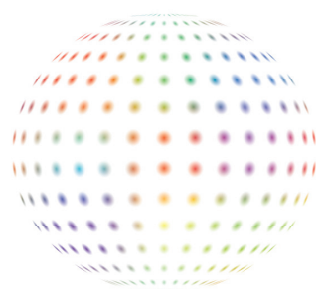


社会福祉学専攻



博士前期課程

履修要項／授業科目表／講義内容

1. 総合人間学研究科社会福祉学専攻 博士前期課程(2025年度)授業科目表

授業科目の名称		配当 年次	単 位 数			開講 状況	担当教員
			必修	選択	自由		
基礎 研究 科目	キリスト教社会福祉・いのち学	1・2		2		前期1	石 居 基 夫
	社会福祉援助方法総論	1		2		閉講	福 島 喜代子
	社会福祉法政策論	1		2		閉講	金 子 和 夫
	社会福祉調査法Ⅰ	1		2		閉講	山 口 麻 衣
	社会福祉調査法Ⅱ	1		2		閉講	浅 野 貴 博
専 門 科 目	高齢者福祉研究	1・2		2		閉講	市 川 一 宏
	司法福祉研究	1・2		2		閉講	西 原 雄次郎
	社会的弱者の自立支援研究	1・2		2		休講	
	障害者福祉研究	1・2		2		閉講	高 山 由美子
	児童家庭福祉研究	1・2		2		後期1	加 藤 純
	地域福祉研究(隔年開講)	1・2		2		前期1	市 川 一 宏
	精神保健福祉研究	1・2		2		後期1	倉 本 英 彦
	スーパービジョン研究	1・2		2		後期1	福 山 和 女
	家族支援コンサルテーション研究	1・2		2		集中	福 山 和 女
	非営利組織における人材育成管理研究(隔年開講)	1・2		2		閉講	市 川 一 宏
	国際社会福祉研究	1・2		2		閉講	原 島 博
	実践評価・実践研究	1・2		3		後期1	山 口 麻 衣
専 門 演 習	演習 A(社会福祉の制度と政策)	1		4		通年	原島 博/山口麻衣/ 浅野貴博
	演習 AⅡ(社会福祉の制度と政策)	2		4		通年	原島 博/山口麻衣/ 浅野貴博
	演習 B(社会福祉方法と技法)	1		4		通年	福島喜代子/高山由美子
	演習 BⅡ(社会福祉方法と技法)	2		4		通年	福島喜代子/高山由美子
実 習	実習	1・2		3		前期1	高 山 由美子

	日本語論文の書き方(留学生対象)	1・2			2※	閉講	ドイル 綾 子
--	------------------	-----	--	--	----	----	---------

※留学生のみ履修可能 卒業要件単位には含まれない

キリスト教社会福祉・いのち学

2単位：前期1コマ

1～2年

石居 基夫

〔科目補足情報〕

キリスト教福祉といのちの倫理

〔到達目標〕

聖書とキリスト教の福祉的働きの実践と研究し、対人援助の専門職に必要な人間理解と倫理の基本、特に、いのちと尊厳を守るための包括的な人間理解におけるスピリチュアルな視点について学ぶ。

〔履修の条件〕

特になし

〔講義概要〕

キリスト教の人間理解の本質、特に対人援助に必要な包括的な人間理解におけるスピリチュアリティについて、聖書と福祉的働きの実践や思想の歴史に学んでいく。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 キリスト教の人間理解の基礎
- 第3回 聖書における対人援助①
- 第4回 聖書における対人援助②
- 第5回 キリスト教と社会福祉実践と思想①
- 第6回 キリスト教と社会福祉実践と思想②
- 第7回 いのちの倫理とスピリチュアルケア①
- 第8回 いのちの倫理とスピリチュアルケア②
- 第9回 いのちの倫理の課題①
- 第10回 いのちの倫理の課題②
- 第11回 実践研究①
- 第12回 実践研究②
- 第13回 実践研究③
- 第14回 まとめ
- 第15回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

課題となる聖書や文献について事前に学び、一人ひとりが関係する対人援助の現場での実践と経験に基づいてテーマについての予習・復習を行い、授業参加に備える。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各授業においてのフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「倫理や法令の理解と遵守」「クライアントやクライアントを取り巻く環境に関

する課題を理解し、適切にアセスメントし、ニーズの充足や課題解決に向けて支援をする実践力」「他職種の専門家と連携する能力」を修得することを目標とする。

〔テキスト〕

藤井美和他編著『生命倫理における宗教とスピリチュアリティ』見洋書房、ISBN：9784771021242

〔参考文献〕

その都度、授業内で紹介するが、たとえば阿部志郎『福祉の哲学』(誠信書房)、糸賀一雄『福祉の思想』(NHK出版)、熊澤義宣『キリスト教死生学論集』(教文館)など。

児童家庭福祉研究

2単位：後期1コマ

1～2年

加藤 純

〔到達目標〕

児童家庭分野の理論・支援アプローチの成り立ちと主要概念について説明する力を養う。

児童家庭分野の理論・アプローチを自身の実践に結び付け省察・評価する力を養い、実践の改善課題について説明できるようになる。

子どもおよび子育てをする家族が直面する多様な課題を捉え、アセスメントし、支援計画を立てられるようになる。

〔履修の条件〕

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科在学生・研究生・科目等履修生。

社会福祉専攻課程協議会加盟校大学院生。(ただし、社会福祉専攻の在校生の履修登録が無い場合は開講しません。)

〔講義概要〕

子どもと家族の支援に関して、ソーシャルワークの基礎理論および実践理論に基づく支援アプローチを学び、実践に活用できるようにする。

児童家庭福祉の対象者を理解するための理論と支援方法について学ぶ。

■授業計画

- 第1回 子どもや家族のニーズの把握と理解(1)：子育て問題の発生機序
 - 1. 生物心理社会的アプローチ(講義・演習)
 - 2. 家族システム論・ニーズ論・役割理論(講義・演習)
- 第2回 子どもや家族のニーズの把握と理解(2)：生活課題としての課題把握
 - 1. アセスメントとは(講義)
 - 2. バイオ・サイコ・ソーシャル・アプローチによる事例検討(演習)
- 第3回 子ども・家族のニーズの把握と理解(3)：法律の定義による課題把握
 - 1. 法律の定義による対象者の限定・対象事象の限定(講義)
 - 2. 虐待の法的概念定義と実践での操作的定義(講義)

- 義・演習)
- 第4回 子ども・家族のニーズの把握と理解(4)：社会問題としての課題把握
1. 社会問題の社会的構築：児童虐待が社会問題として成立する過程(講義・演習)
 2. アセスメントにおける情報の抽象化と具体化(講義)
- 第5回 子ども・家庭への支援(1)：児童福祉施設における専門職(心理職)の配置と働き
1. 専門職(心理職)の配置基準と任用資格(講義)
 2. 児童福祉施設における専門職(心理職)の業務・多職種連携(講義)
- 第6回 子ども・家庭への支援(2)：生活場面での支援
1. 生活場面面接の歴史(講義)
 2. 対象にできる課題と支援方法(講義・演習)
- 第7回 子ども・家庭への支援(3)：生活場面での支援
1. 遊びや生活の持つ象徴的な意味を活かした支援
- 第8回 子ども・家庭への支援(4)：施設内面接室での治療的支援
1. 被害への影響への治療的支援(講義)
 2. 性被害を受けた子どもへのナラティブ・アプローチ(事例検討)
- 第9回 子ども・家庭への支援(5)：相談機関での家族支援
1. 家族システム論と家族療法の主な理論(講義)
 2. 公的相談機関による家族と関係者へのコンサルテーション(事例検討)
- 第10回 第10回 子ども・家庭への支援(6)：入所施設での家族支援
1. 家族支援の理念と実際(解決志向アプローチ)(講義・演習)
- 第11回 子ども・家庭への支援(7)：法律に基づく介入
1. 養護相談・虐待相談に関する法制度(講義)
 2. 行政機関の法的権限と介入過程(視聴覚教材)
- 第12回 子ども・家庭への支援(7)：意志決定と支援計画
1. 家族支援におけるアセスメントと支援計画策定(リスク理論)(演習)
 2. 家族再統合のための地域資源と連携(講義・演習)
- 第13回 子ども・家庭支援に関する評価と研究(1)：支援目的と効果の評価
1. プログラム評価の基礎とロジックモデルの作成方法(講義・演習)
- 第14回 子ども・家庭支援に関する評価と研究(2)：児童家庭福祉の課題と各自の実践や研究の関わり(まとめ)
- 第15回 レポート

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

授業には全て出席すること。最終レポートを提出し合格すること。やむをえない遅刻は授業開始から30分までとする。遅刻3回で欠席1回とみなす。30分以上の遅刻・早退は欠席とする。同一コマで遅刻と早退が合計30分以上の場合欠席とする。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習

等)を必要とします。授業中に事例や資料についてグループディスカッションをするので、事前に事例や資料を読んでください。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

期末レポートはメールにより提出してください。提出されたレポートにオンラインでコメントします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. クライアントやクライアントを取り巻く環境に関する課題を理解し、適切にアセスメントし、ニーズの充足や課題解決に向けて支援をする実践力を有する」及び

「4. 他職種の専門家と連携する能力を有する」に該当する。この科目を履修することで、福祉の高度な専門職に必要とされる知識や技術、人権と生活を守る能力を身につけることとなる。

〔テキスト〕

特定のテキストは使いません。資料を配布します。授業では、下記の参考文献の内容を紹介します。

〔参考文献〕

参考文献：授業では、下記の文献の内容を紹介します。絶版の書籍は図書館でリザーブブックを利用してください。

上野加代子・野村知二(2003)『〈児童虐待〉の構築』世界思想社教学社(978-47907101418)絶版

中河伸俊他(2001)『社会構築主義のスペクトラム』ナカニシヤ出版(978-4888486446)絶版

衣斐哲臣(1997)「体罰習慣がある家族に対する助言指導と保母・教師へのコンサルテーション」『家族療法研究』14巻2号

M. Durrant(1991) "Residential Treatment" W. W. Norton. (978-0393701548) 絶版

M. Durrant(1987)「性虐待の被害者であった男の子の治療」Family Therapy Case Studies 2(1)：57-63.

関連して、下記の文献もぜひお読みください。

I. KimBerg(磯貝希久子監訳、1997)『家族支援ハンドブック』金剛出版(978-4772405461)絶版

A. Turnell, & S. Edwards(白木孝二他訳、2004)『安全のサインを求めて』金剛出版(978-4772408134)絶版

ロッシ他(2004=大島巖他訳2005)『プログラム評価の理論と方法』日本評論社(978-4535584037)10,540円

W. K. Kellogg Foundation(2001=農林水産政策情報センター2003訳)『ロジックモデル策定ガイド』https://www.maff.go.jp/primaff/about/center/hokoku/attach/pdf/200308_hk066.pdf

〔備考〕

やむを得ず講義に出席できない場合はレポートで代替できるが、代替を認めるのは研修全体のうち3回までとする。

評価のポイントは、児童家庭分野の理論と支援アプローチの概念や技法を理解できたか、および各自の実践の省察・改善に活かす道筋がイメージできたか、児童家庭分野の対象者を理解するための理論と支援方法について理解できたか、および各自の実践におけるアセスメントや支援計画立案に活かすイメージができたかである。習得度は、(1)授業における討議や事例検討への参加状況、(2)最終レポートの内容により判断する。

地域福祉研究

2単位：前期1コマ

1～2年

市川 一宏

【科目補足情報】

地域福祉研究とコミュニティワーク研究は隔年ごとに開講される

【到達目標】

地域福祉の理論、政策及び地域福祉の方法論を説明でき、コミュニティワーク、地域福祉コーディネーション、コミュニティソーシャルワーク、ボランティアコーディネーション等の方法論を踏まえて、多様な地域福祉現場で自分の実践を評価し実践の改善、課題について説明できる力量を向上させる。

【履修の条件】

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科社会福祉学専攻在学生・研究生・科目等履修生。同研究科臨床心理学科専攻在学生。社会福祉専攻課程協議会加盟校大学院生

【講義概要】

地域福祉の基本理念、概念、発展過程、政策について学び、その推進方法について計画手法、福祉教育、住民参加方法、ボランティアマネジメント、地域福祉の開発手法を学習し実践に活用できるようにする。

■授業計画

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 地域福祉の概念
①今日の地域福祉問題の明確化、②地域福祉の概念規定 |
| 第2回 | 地域福祉の発展過程(社会福祉協議会の展開の検討を含む)
①昭和20年代の戦後対策、②高度成長期の問題の顕在化と地域福祉の萌芽、③コミュニティケアと地域福祉、④社会福祉改革と地域福祉、⑤地域福祉システムの明確化、⑥地域福祉の制度化 |
| 第3回 | 地域福祉の政策と新たな展開(総論)
①地域共生社会の提言、②生活困窮者支援制度と地域福祉、③介護保険制度における総合事業と地域福祉、④地域包括ケアシステムと地域福祉 |
| 第4回 | 地域福祉計画と地域福祉活動計画
①社会福祉法における地域福祉計画の規定、②地域福祉計画の現状と課題、③地域福祉活動計画の動向課題、④両計画の関連性 |
| 第5回 | 地域福祉財源の開発
①地域福祉財源の現状と課題、②共同募金の現状と課題 |
| 第6回 | 地域福祉と住民参加
①住民の定義と住民参加の意義、②住民参加の展開、③関係機関の定義と役割の検討、④多様な住民参加の現状、⑤住民と関係機関の連携
地域福祉における多様な協働
①多元化の動向、②インフォーマルケアとフォーマルケアの連携、③専門職間の連携等、多様な連携の現状と課題 |
| 第7回 | コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク |

①2つのワークの定義、②2つのワークの背景、③実際の展開過程

- | | |
|------|---|
| 第8回 | ボランティアコーディネーション
①ボランティアの定義、②NPO 法人の動向、③ボランティアコーディネーターの業務、④コーディネーションの課題 |
| 第9回 | 福祉教育
①福祉教育の定義、②学校における福祉教育の現状と課題、③地域における福祉教育の現状と課題 |
| 第10回 | 小地域福祉活動
①小地域福祉活動の定義、②小地域福祉活動の展開過程、③サロン活動の背景、サ意義、現状と課題 |
| 第11回 | 生活困窮者自立支援制度の現状と課題 |
| 第12回 | 日常生活自立支援制度の現状と課題 |
| 第13回 | 地域福祉の関係機関、人材①民生委員児童委員、②保護司、③その他 |
| 第14回 | 災害ソーシャルワーク |
| 第15回 | 所属組織での実践を評価し、実践の改善課題について、レポート提出 |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

面接受業の出席100%。ただし、やむを得ず講義に出席できない場合はレポートで代替できるが、代替を認めるのは研修全体のうち3回までとする。やむをえない遅刻は授業開始から30分までとする。30分を過ぎた場合は、欠席とする。遅刻3回で欠席1回までとみなす。30分以上の早退も同様とする。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。なお、シラバスにあるテーマに関して授業ごとにレポートを分担する。分担したレポートだけでなく、関係文献もしくは自分が関わる実践現場を通して学習しておくこと。シラバスにあるテーマに関して授業ごとにレポートを分担する。分担したレポートだけでなく、関係文献もしくは自分が関わる実践現場を通して学習しておくこと。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業での発表、レポートに関し、適宜評価を行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

広い学識と、高度な専門的知識や技術を備え、専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけているかどうか、課程修了の目安となる。

【参考文献】

テーマに沿って、適宜文献を提示する

【備考】

特になし

精神保健福祉研究

2単位：後期1コマ

1～2年

倉本 英彦

〔科目補足情報〕

開講は後期1コマ(1・2年)とする

〔到達目標〕

福祉職・心理職・医療職は協働することが多く、共通の専門的知識を有することが必要である。そのもともと基礎となる知識体系である精神医学を学び、身体、精神、社会という側面からの多次的なアプローチができるようにする。

〔履修の条件〕

社会福祉学専攻生・臨床心理学専攻生で、履修登録を行った者。

〔講義概要〕

精神医学とは何だろうか?臨床心理学や社会福祉学との関連から位置付けてみよう。精神医学の方法論は?生物、精神、心理、社会的次元から探ってみよう。精神科医療の現状とは?日本と世界の精神科医療の実態を知ろう。精神障害とは?異常と正常、病気と健康、精神の病とは何か。精神障害の歴史や概念、そして原因、症状、疫学、診断、治療、予後、リハビリテーションなど、個々の疾患の特徴を体系的に学ぼう。授業形態については、基本的に講義形式になるが、わかりやすいようにDVD映像を使用したり、トピックに沿った発表形式で行うことにする。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 精神医学入門
第2回	異常と正常、病気と健康、素質と環境
第3回	精神症状、状態像、症候群、精神障害の体系、精神疾患概念の歴史
第4回	心因によるもの(1) 心身症、神経症とストレス関連障害
第5回	心因によるもの(2) 睡眠・摂食・性関連障害
第6回	内因によるもの(1) 統合失調症
第7回	内因によるもの(2) 気分障害
第8回	器質因によるもの(1) 脳の急性障害
第9回	器質因によるもの(2) 脳の慢性障害
第10回	器質因によるもの(3) アルコール・薬物関連障害
第11回	児童・青年期精神医学(1) 情緒と行動の問題
第12回	児童・青年期精神医学(2) 発達障害
第13回	性格のかたより・パーソナリティ障害
第14回	精神保健福祉法 司法精神医学
第15回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(40%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

専門職に就くものとして授業に対する適切で積極的な取り組みも考慮する

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

予習：シラバスに沿った箇所の教科書や文献をあらかじめ読んでおく

復習：講義内容や発表をよく振り返り、ノートにまとめる

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計14回の授業で45時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内小テストの解答・解説は、テストの実施日あるいは次回に行う。

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、広い学識と、高度な専門的知識や技術を備え、専門性を必要とするソーシャルワーク専門職として地域社会に貢献する能力を身につけることとなる。

〔テキスト〕

山下格・大森哲郎著『精神医学ハンドブッカー医学・保健・福祉の基礎知識第8版』日本評論社、ISBN 978-4-535-98427-1, C3047, 2,400円

〔参考文献〕

倉本英彦著『思春期のこころの問題と予後』ナカニシヤ出版、2,600円

倉本英彦著『つまずく若者たちー思春期臨床の現場から』日本評論社1,600円

〔備考〕

毎回、テキストと各自用意した本科目専用のノートを持参すること

スーパービジョン研究

2単位：後期1コマ

1～2年

福山 和女

〔到達目標〕

所属組織におけるソーシャルワーク業務の内容および社会福祉士の役割について系統的に説明できる。組織における後進育成の意味を理解し、自組織の新人研修・実習指導のためのスーパービジョンの方法と技術を習得させる。

〔履修の条件〕

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科在学生・研究生・科目等履修生。社会福祉専攻課程協議会加盟校大学院生

〔講義概要〕

所属組織における社会福祉士の新人研修・実習プログラムの立案方法や指導の留意点を学習し、組織において後進指導の役割を担えるようにさせる。

■授業計画

- 第1回 新人・実習生指導概要スーパービジョンに焦点を当て(講義・討論)
- 第2回 新人・実習生指導概要、スーパービジョンプロセス(講義・討論)
- 第3回 新人・実習生指導概要、スーパーバイザーの尊厳の保持(講義・討論)
- 第4回 新人・実習生指導概要 スーパーバイザーの理論背景(講義・討論)
- 第5回 新人・実習生の自律性の育成：スーパービジョンのプログラミングの意義(演習)
- 第6回 新人・実習生のためのスーパービジョン体制と協働体制(演習)
- 第7回 新人・実習生スーパービジョンプログラミングの実践：目的(演習)
- 第8回 新人・実習生スーパービジョンプログラミングの実践：目標(演習)
- 第9回 新人・実習生スーパービジョンプログラミングの実践：実施項目(演習)
- 第10回 新人・実習生スーパービジョンプログラミングの実践：リスクマネジメント(演習)
- 第11回 新人・実習生指導のスーパービジョンの限界(演習)
- 第12回 組織運営管理論-人材確保策、Teal 組織論など、(講義と演習)
- 第13回 スーパービジョンの方法論、モデル、アプローチ(講義と演習)
- 第14回 新人・実習生のスーパービジョン体制の必要性(演習)
まとめ理論と実践の関連性
- 第15回 -

[成績評価]

試験(30%)、レポート(30%)、小テスト(20%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

テキストや参考文献から、該当する理論や技術について予習・復習することを薦める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

レポートなどで、知識や理論の積み重ねの確認を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]

この科目を履修することにより、ディプロマポリシーに定める1. 臨床心理の専門家としての使命と社会的責任を自覚し、生涯にわたる研鑽の必要性を認識し、研鑽に必要な研究能力や指導を受ける能力を有するなどの能力を習得することを目標とする。

[テキスト]

ISBN 978-4-623-04416-0『ソーシャルワークのスーパービジョン-人の理解の研究(MINERVA 福祉専門職セミナー)』福山和女(著)(2005)ミネルヴァ書房 2,940円+税

[参考文献]

ISBN 978-4-623-04416-0『ソーシャルワークのスーパービジョン』福山和女編著(2005)ミネルヴァ書房 2,940円+税

ISBN 978-4-7724-1193-6 C 3011 Lee, Robert E, Craig A. Everett(原著), 福山和女, 石井千賀子, 日本家族研究家族療法学会評議員会(翻訳)『家族療法のスーパーヴィジョン-統合的モデル』金剛出版 (2011)3,990円+税, Kadushin, A. ほか著福山和女監修『スーパービジョンインソーシャルワーク』中央法規(2016)10,000円+税

福山和女監訳(2016)『スーパービジョンインソーシャルワーク』中央法規出版 10,000円+税

[備考]

出席日数、学期中のレポートの提出、試験などで総合的に評価する。

参加態度、意見交換、フィードバックなどの質と量を加味する。

家族支援コンサルテーション研究

2単位：集中	1～2年
福山 和女	

[到達目標]

機能不全・崩壊の危機に陥っている家族への支援をしている支援者へのコンサルテーションの実践を検討できる。

[履修の条件]

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科在学生・研究生・科目等履修生。社会福祉専攻課程協議会加盟校大学院生

[講義概要]

家族システムの捉え方、力動、介入について、様々なタイプの事例を家族療法、ストレス、精神分析、組織論を適用して検討できるように学ばせる。家族支援を実施している支援者に対するコンサルテーションの知識、技術、方法等を学ばせる。

■授業計画

- 第1回 家族システム論(講義)
- 第2回 コンサルテーション論(講義)
- 第3回 家族支援に危機介入理論の適用と、コンサルテーションの必要性(演習)
- 第4回 家族支援の現状と課題(講義と演習)
- 第5回 支援者が抱える家族支援の困難と、家族ダイナミクスと支援者のストレスとの交互作用現象(講義と演習)
- 第6回 家族支援の支援者の困難と組織の中の責務と立場によるリーダーシップ論、組織論(講義と演習)
- 第7回 支援機関における人間関係と家族支援の担当家族と支援者とのアイソモρφイズム(異種同型)について(演習)
- 第8回 家族支援の事例に対するコンサルテーションの介入計画(演習)
- 第9回 組織ストレスと支援者のストレスとの関連性と組織で発生しているスタッフの困難性を解決する視点(演習)
- 第10回 担当する家族における関係上の三角形と組織での支援者とスタッフにおける関係上の三角形の類似性(演習)

- 習)
- 第11回 家族構造のなかでも世代間伝承の概念を適用し、家族理解(演習)
- 第12回 家族の機能不全について分析と支援するためのコンサルテーション計画(演習)
- 第13回 家族支援のコンサルテーションの実施計画書作成とリスクマネジメントから評価(演習)
- 第14回 家族支援のコンサルテーションの効果について(演習)
全14回のプロセスを統括させ家族支援のコンサルテーションの意義を理解(講義と演習)
- 第15回 -

〔成績評価〕

試験(20%)、レポート(40%)、小テスト(10%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

面接授業の出席100%。ただし、やむを得ず講義に出席できない場合はレポートで代替できるが、代替を認めるのは研修全体のうち3回までとする。

・やむをえない遅刻は授業開始から30分までとする。30分を過ぎた場合は、欠席とする。遅刻3回で欠席1回までとみなす。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

家族療法とコンサルテーションについては理論的背景などについて学習をしておくこと。また、現場で必要とされる知識について、ある程度の理解ができるように予習をしておくこと。復習に関しては、講義の中で指摘した個所の理解を深め、コンサルテーション実践に適用できるかどうかを点検すること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートなどで、習得した内容についての確認を行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより、高度な技術と知識を備えたソーシャルワーカーとして、組織の運営管理者として、ディプロマポリシーに定める2. 人権や社会正義を価値基盤とし、倫理や法を遵守する。4. 他職種の専門家と連携する。などの能力を習得することを目標とする。

〔テキスト〕

ISBN9784772413176『家族療法テキストブック』日本家族研究・家族療法学会編 金剛出版 2013年 6160円(税込)

〔参考文献〕

・ISBN978-4-7724-0783-0『臨床家のための家族療法リソースブック総説と文献105』日本家族研究家族療法学会 金剛出版 4200円+税

実践評価・実践研究

3単位：後期1コマ

1～2年

山口 麻衣

〔到達目標〕

- ①自身の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題について記述し、説明できるようになる。
- ②自身の実践について適切な研究方法を用いて評価が出来るようにし、評価から得た知見を発表できるようになる。

〔履修の条件〕

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科社会福祉学専攻在学生で社会福祉士資格を有する者。

〔講義概要〕

自分自身の実践について、実践の評価、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための方法を学習する。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション、実践評価、実践研究の意義と方法
各自実践・研究課題提出と意見交換Ⅰ(演習)
- 第2回 各自実践・研究課題提出と意見交換Ⅱ(演習)
- 第3回 各自の課題に則した研究方法の検討Ⅰ(演習)
- 第4回 各自の課題に則した研究方法の検討Ⅱ(演習)
- 第5回 各自の課題に則した研究方法の検討Ⅱ(演習)
実践の記録と言語化の意義と方法(講義と演習)
- 第6回 各自の実践の記録と言語化の試作報告Ⅰ(演習)
- 第7回 各自の実践の記録と言語化の試作報告Ⅱ(演習)
- 第8回 実践の評価と検証の意義と方法(講義と演習)
- 第9回 各自の実践の評価と検証の試作報告Ⅰ(演習)
- 第10回 各自の実践の評価と検証の試作報告Ⅱ(演習)
- 第11回 研究発表Ⅰ(演習)
- 第12回 研究発表Ⅱ(演習)
- 第13回 実践報告会での発表1
- 第14回 実践報告会での発表2
- 第15回 レポート提出

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

授業へは100%の出席が必須である。

別途提示する認定社会福祉士養成講座の諸条件を完全にクリアすることが条件である。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業以外に個別指導を行う。授業と並行して実践を続けることが前提である。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ディプロマポリシーの「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、広い学識と、高度な専門的知識や技術を備え、専門性を必要とするソーシャルワーク専門職として地域社会に貢献する能力を身につけることとなる。

〔テキスト〕

特に定めない。

〔参考文献〕

授業時に適宜紹介する。

演習 A(社会福祉の制度と政策)

4単位：通年

1年

原島 博、山口 麻衣、浅野 貴博

〔到達目標〕

(ねらい)

この演習では、制度・政策上の問題点について、時間的な変化・発展を縦軸とし、国際比較を横軸として、深くまた広い視野を持った研究を行い、参加者の社会福祉制度、政策についての知識の深化、発展を目指す。

〔履修の条件〕

なし

〔講義概要〕

この演習では、上記の3人の教員が原則として個別に指導、助言にあたるが、必要に応じて合同ゼミを持つ。

■授業計画

第1回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第2回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第3回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第4回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第5回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第6回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第7回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第8回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テ

マに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第9回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第10回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第11回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第12回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第13回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第14回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第15回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第16回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第17回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第18回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第19回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第20回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第21回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第22回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第23回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第24回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第25回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第26回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

- 第27回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第28回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第29回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第30回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは各自十分な準備をして行うこと。メンバーはレポートに対して活発な検討ができる準備すること

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

院生の修士論文指導として行うものであり、ゼミでの指導のもとに、院生は修士論文指導担当教員から個別指導を受け、課題の達成に努める。自己学習⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習⇒ゼミでの発表と教員からのコメント⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習という学習サイクルに位置づけられる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

報告の際にレジュメを提出して、コメントを受ける。さらに上記学習サイクルに基づき、院生は学習を進める。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2. 人権や社会正義を価値基盤とし、倫理や法を遵守する能力を有する。」「3. クライアントやクライアントを取り巻く環境に関する課題を理解し、適切にアセスメントし、ニーズの充足や課題解決に向けて支援をする実践力を有する。」「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。

この科目を履修することで、高度な専門的職に必要とされる知識や技術、人権と生活を守る能力を身につけることとなる。

〔テキスト〕

必要に応じて随時示す。

〔参考文献〕

必要に応じて随時示す。

〔備考〕

特になし

演習 A II (社会福祉の制度と政策)

4単位：通年

2年

原島 博、山口 麻衣、浅野 貴博

〔到達目標〕

(ねらい)

この演習では、参加者個々人の関心を基本において社会福祉の制度・政策上の問題点について、時間的な変化・発展を縦軸とし、国際比較を横軸として、深くまた広い視野をもった研究を行い、参加者の社会福祉制度、政策についての見識の深化、発展を目指す。

〔履修の条件〕

なし

〔講義概要〕

この演習では、上記の3人の教員が原則として個別に、指導、助言にあたるが、必要に応じて合同ゼミを持つ。

■授業計画

- 第1回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第2回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第3回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第4回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第5回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第6回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第7回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第8回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第9回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第10回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第11回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第12回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

深める。

- 第13回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第14回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第15回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第16回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第17回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第18回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第19回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第20回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第21回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第22回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第23回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第24回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第25回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第26回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第27回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第28回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第29回 順番(各回1名程度)に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
- 第30回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、そ

の他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは各自十分な準備をして行うこと。メンバーはレポートに対し活発な検討ができる準備をすること

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

院生の修士論文指導として行うものであり、ゼミでの指導のもとに、院生は修士論文指導担当教員から個別指導を受け、課題の達成に努める。自己学習⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習⇒ゼミでの発表と教員からのコメント⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習という学習サイクルに位置づけられる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

報告の際にレジメを提出し、コメントを受ける。さらに上記学習サイクルに基づき、院生は学習を進める。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2. 人権や社会正義を価値基盤とし、倫理や法を遵守する能力を有する。」「3. クライアントやクライアントを取り巻く環境に関する課題を理解し、適切にアセスメントし、ニーズの充足や課題解決に向けて支援をする実践力を有する。」「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。

この科目を履修することで、高度な専門的職に必要とされる知識や技術、人権と生活を守る能力を身につけることとなる。

〔テキスト〕

必要に応じて随時示す。

〔参考文献〕

必要に応じて随時示す。

〔備考〕

特になし

演習 B(社会福祉方法と技法)

4単位：通年

1年

福島 喜代子、高山 由美子

〔到達目標〕

ソーシャルワーク研究について、基本的な姿勢を身につける。
自らのテーマに関する先行研究をまとめる力を身につける。
自らのテーマに関する調査研究を遂行する力をつける。
自らのテーマに関する調査結果について、分析し、考察を深める力をつける。
ソーシャルワーカーとしての実践力をつける。

〔履修の条件〕

ソーシャルワークに関する研究テーマを有する者であれば履修できる。特に、ソーシャルワーク、権利擁護、社会的弱者(障害者、高齢者、母子、子ども等)やその家族の支援、ソーシャルワーク専門職等に関するテーマであればなおよい。

第1回、第2回、第5回、第8回、第11回、第13回、第14回は原則対面の授業とする。その他の週は双方向性の担保されたオンラインによる授業を行う。

〔講義概要〕

発表や討議を通して、ソーシャルワーク研究の理論や実践に焦点をあてた研究を深める。

特に修士論文執筆に向けて、討論や指導を行う。

■授業計画

- 第1回 ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
- 第2回 社会福祉現場における問題意識
- 第3回 研究テーマと先行研究
- 第4回 研究の背景(問題の現状)Ⅰ
- 第5回 研究の背景(問題の現状)Ⅱ
- 第6回 研究の背景(制度・政策の整理)Ⅰ
- 第7回 研究の背景(制度・政策の整理)Ⅱ
- 第8回 リサーチクエストと仮説の立て方Ⅰ
- 第9回 リサーチクエストと仮説の立て方Ⅱ
- 第10回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅰ
- 第11回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅱ
- 第12回 先行研究のまとめ(概念)Ⅰ
- 第13回 先行研究のまとめ(概念)Ⅱ
- 第14回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅰ
- 第15回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅱ
- 第16回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅲ
- 第17回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
- 第18回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
- 第19回 倫理審査に向けての準備
- 第20回 調査の方法(質的調査)Ⅰ
- 第21回 調査の方法(質的調査)Ⅱ
- 第22回 調査の方法(量的調査)Ⅰ
- 第23回 調査の方法(量的調査)Ⅱ
- 第24回 調査結果の分析Ⅰ
- 第25回 調査結果の分析Ⅱ
- 第26回 考察(調査の結果についての総合的な考察)
- 第27回 考察(先行研究との比較)
- 第28回 考察(調査の限界と課題)
- 第29回 ^
- 第30回 ^

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

討議や発表による授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。各自自分の研究テーマに基づいた先行研究を調べ、整理し、発表を重ねていく。リサーチクエストあるいは仮説をたて、調査研究をすすめる、その結果や考察について発表を行う。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表時のレポート(レジュメ)について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、修士論文を仕上げていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ディプロマポリシーの「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する高度な知識や技術を備え、高度な専門職業人としてのソーシャルワーカー、または、社会福祉施設・機関における運営・管理者としての研究能力がつくことになる。

〔テキスト〕

適宜紹介をしていく。

〔参考文献〕

適宜紹介をしていく。

演習 B II (社会福祉方法と技法)

4単位：通年

2年

福島 喜代子、高山 由美子

〔到達目標〕

ソーシャルワーク研究について、基本的な姿勢を身につける。
自らのテーマに関する先行研究をまとめる力を身につける。
自らのテーマに関する調査研究を遂行する力をつける。
自らのテーマに関する調査結果について、分析し、考察を深める力をつける。
ソーシャルワーカーとしての実践力をつける。

〔履修の条件〕

ソーシャルワークに関する研究テーマを有する者であれば履修できる。特に、ソーシャルワーク、権利擁護、社会的弱者(障害者、高齢者、母子、子ども等)やその家族の支援、ソーシャルワーク専門職等に関するテーマであればなおよい。

第1回、第2回、第5回、第8回、第11回、第13回、第14回は原則対面の授業とする。その他の週は双方向性の担保されたオンラインによる授業を行う。

〔講義概要〕

発表や討議を通して、ソーシャルワーク研究の理論や実践に焦点をあてた研究を深める。

特に修士論文執筆に向けて、討論や指導を行う。

■授業計画

- 第1回 ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
- 第2回 社会福祉現場における問題意識
- 第3回 研究テーマと先行研究
- 第4回 研究の背景(問題の現状)Ⅰ
- 第5回 研究の背景(問題の現状)Ⅱ
- 第6回 研究の背景(制度・政策の整理)Ⅰ
- 第7回 研究の背景(制度・政策の整理)Ⅱ
- 第8回 リサーチクエストと仮説の立て方Ⅰ

- 第9回 リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅱ
- 第10回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅰ
- 第11回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅱ
- 第12回 先行研究のまとめ(概念)Ⅰ
- 第13回 先行研究のまとめ(概念)Ⅱ
- 第14回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅰ
- 第15回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅱ
- 第16回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅲ
- 第17回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
- 第18回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
- 第19回 倫理審査に向けての準備
- 第20回 調査の方法(質的調査)Ⅰ
- 第21回 調査の方法(質的調査)Ⅱ
- 第22回 調査の方法(量的調査)Ⅰ
- 第23回 調査の方法(量的調査)Ⅱ
- 第24回 調査結果の分析Ⅰ
- 第25回 調査結果の分析Ⅱ
- 第26回 考察(調査の結果についての総合的な考察)
- 第27回 考察(先行研究との比較)
- 第28回 考察(調査の限界と課題)
- 第29回 ^
- 第30回 ^

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

討議や発表による授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。各自自分の研究テーマに基づいた先行研究を調べ、整理し、発表を重ねていく。リサーチクエスチョンあるいは仮説をたて、調査研究をすすめ、その結果や考察について発表を行う。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表時のレポート(レジュメ)について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、修士論文を仕上げていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ディプロマポリシーの「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する高度な知識や技術を備え、高度な専門職業人としてのソーシャルワーカー、または、社会福祉施設・機関における運営・管理者としての研究能力がつくことになる。

〔テキスト〕

適宜紹介をしていく。

〔参考文献〕

適宜紹介をしていく。

実習

3単位：前期1コマ

1～2年

高山 由美子

〔到達目標〕

1. 各自の研究テーマや実践課題との関わりで実習先を選択し、大学院生として実習に取り組む意味を考える。
2. 実践現場や教育の場で実習指導を担当する場合も想定して実習を行う。

〔履修の条件〕

実習は選択科目であるが、大学院ならではの実習体験ができるので、積極的な履修をすすめる。本科目を履修する場合は、修士論文等の執筆との関係もあるので、できるだけ1年次に実習を終えることが望ましい。

前期の授業と、各自の実習先確定までは実習主任が担当する。

〔講義概要〕

履修学生は1年の前期に行われる実習準備のための授業に出席しなければならない。この授業では、高度の専門性を備えたソーシャルワーカーとして、必要な知識・技術・職業倫理・支援態度等々を再確認し、さらにその資質の向上を目指して、講義・討議・事例検討等々を行う。実習時の指導教員は実習先や実習内容によって決められる。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション/社会福祉教育と実習の意義、実習先希望調査の配布
- 第2回 実習報告会(前年度に実習を修了した院生の実習報告を聴く)
- 第3回 個別相談1(実習希望調査をもとに実習先確定へ向けての個別相談)
- 第4回 本学での実習のプロセス
提出書類(実習計画書、身上書、評価表等)について
- 第5回 実習とスーパービジョン
スーパーバイザーとスーパーバイザー
- 第6回 実習目標の設定と実習計画の立て方
- 第7回 ソーシャルワーカーとしての支援姿勢と職業倫理
- 第8回 個別相談2(実習先確定へ向けての個別相談)
- 第9回 個別相談3(実習先確定へ向けての個別相談)
- 第10回 実習生と実習先や利用者との関係構築の理解
- 第11回 実習における記録の意義
- 第12回 模擬記録の発表と意見交換
- 第13回 個別相談(実習計画と身上書の作成)
- 第14回 実習計画の発表
- 第15回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

授業時の討議や発表による貢献度、実習先でのおおよそ10日間(80時間)の実習と日々の実習記録の提出、さらに実習報告

会での実習報告により総合的に評価する。

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

実習前の準備として、実習分野について情報収集すること。また、授業時に出される課題に取り組んだ上で、次の授業に出席することを求める。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

授業時の発表等に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。さらに実習記録については指導担当教員がフィードバックを行う。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

ディプロマポリシーの「人権や社会正義を価値基盤とし、倫理や法を遵守する能力を有する」「クライアントやクライアントを取り巻く環境に関する課題を理解し、適切にアセスメントし、ニーズの充足や課題解決に向けて支援をする実践力を有する」「他職種の専門家と連携する能力を有する」に該当する。この科目を履修することにより、ソーシャルワーク専門職としての価値と倫理、高度な専門知識と技術を備え、専門職としての優れた能力を身につけることとなる。

〔 テキスト 〕

各授業時に必要な資料を配付する。

〔 参考文献 〕

実習報告会での報告資料等を参考にする。

〔 備考 〕

成績評価の「課題」とは、毎回の授業時に提示される課題や必要資料の作成である。これらを全て提出することによって、実習を行うことができる。実習報告会への出席及び実習報告会において報告を行うことを求める。

博士後期課程

履修要項／授業科目表／研究指導概要／
講義内容

〈別表1〉

2018年度以前入学者博士後期課程授業科目表

授 業 科 目	担当教員
社会福祉学特殊研究	福島 喜代子 山口 麻衣 高山 由美子 原島 博 石居 基夫

博士後期課程研究指導概要

授 業 科 目 名	研 究 指 導 概 要
社会福祉学特殊研究	福島 喜代子 わが国では、社会福祉の現場で、制度・政策の充実が進む一方、少子高齢社会、人口減少傾向の折り、財政面での制約もあり、サービスを効果的、効率的に提供する必要がありますがますます高まってきている。このような中、ソーシャルワーク専門職の理論や方法のさらなる発展が求められ、社会福祉現場での相談援助の理論や方法についての研究に対するニーズも高まってきている。また、近年、根拠に基づくプログラムの提供や実践の必要性の認識が高まってきており、高度な質的・量的な研究が求められている。そこで、この研究系では、ソーシャルワーク、専門職スキル、精神保健福祉、権利擁護、家族支援などをキーワードとする研究について研究指導を行う。 山口 麻衣 人口減少・少子高齢社会の我が国におけるケアに関する課題は生活支援における実践課題でもあり、政策課題でもある。フォーマルなケアとインフォーマルなケアがどのように関連しつつ、地域において包括的なケアを作り上げることができるのだろうか。専門職としてのソーシャルワーカーの役割は何か。この研究系では、高齢者福祉研究やケア研究に関するテーマを中心に、社会福祉調査研究法についても体系的に学びを深め、各自のテーマで実証研究論文が執筆できるよう研究指導を行う。 高山 由美子 ノーマライゼーションの理念が障がい福祉のみならず、社会福祉の営みを支える重要な理念として認識される中、地域共生社会の実現を目指した様々な施策や支援のあり方が模索されている。しかし、誰もがその人らしい暮らしを築く権利があるとされながら、その権利の実現が難しい状況におかれている人々の存在がある。人々が直面する生活上の課題は多様であるが、その解決においてはより一層、ソーシャルという視点が不可欠であることが認識されつつある。そして、地域社会における権利擁護という視点を前提として、社会福祉専門職はどのようにソーシャルワークに取り組むのかといった研究の必要性が高まっている。障がい福祉、地域包括ケア、利用者支援の仕組み、社会福祉専門職支援等の視点から研究指導を行う。 原島 博 グローバル化の潮流の中で、国際的相互関係が進展し、経済格差による貧困をはじめとする社会問題から人々の移動による生活課題が増加している。国際主義の立場から国際条約、人間の安全保障論からSDGsにかかわり、国際福祉および国際的脈絡の中で生じている国内福祉に焦点をあて、国際協力、社会政策、社会福祉制度・サービスの在り方を検討する。この研究系では、社会開発、国際協力、国際ソーシャルワーク、多文化ソーシャルワークなどをキーワードとする研究について研究指導を行う。 石居 基夫 地域包括ケアシステムの実現が目指される中、単に高齢者福祉の分野のみならず、福祉の様々な分野において生活者（対象者およびその家族も含め）の全人的ケアのニーズが広く知られてくることとなる。それに関連して、処遇・対人援助の現場における人のいのちと尊厳を守ること、またスピリチュアルな領域の持つ意味をあらためて問い直す必要も生じてきていると考えられる。この研究系についての研究指導は、主として社会福祉におけるスピリチュアル・ウェルビーイング、ならびにいのち学、生命倫理について行う。

〈別表2〉

2019年度以降入学者 博士後期課程授業科目表

分野	授 業 科 目	配当 年次	単 位 数			開講 状況	担当教員
			必修	選択	自由		
専門 研究 指導 科目	社会福祉学専門研究指導Ⅰ	1	2			通年	福島、山口、高山、原島、石居
	社会福祉学専門研究指導Ⅱ	2	2			通年	福島、山口、高山、原島、石居
	社会福祉学専門研究指導Ⅲ	3	2			通年	福島、山口、高山、原島、石居
演 習 科 研 目 究	社会福祉学専門研究演習Ⅰ	1	2			通年	福島、山口、高山、原島、石居
	社会福祉学専門研究演習Ⅱ	2	2			通年	福島、山口、高山、原島、石居
科 選 目 自 由	社会福祉学学生指導法(プレFD)	1・2・3			1	通年	福島、山口、高山、原島
科 課 程 共 通	社会福祉調査法Ⅰ	1・2		2		通年	山口 麻衣
	社会福祉調査法Ⅱ	1・2		2		通年	浅野 貴博

図 博士後期課程 スケジュール

1年前期		
↓	4月	指導教員登録
	5月	第1次研究計画書提出
1年後期		
↓	9-10月	第2次研究計画書提出
	3月	年度末レポート提出
2年前期		
↓	4-5月	最終研究計画書提出
2年後期		
↓	10月	博士論文中間報告会
	1月	博士論文提出資格試験申し込み
	2月	博士論文提出資格試験
	2-3月	博士論文提出資格試験合格発表
	3月	年度末レポート提出
3年前期		
↓	5月	博士論文提出
	9月	博士論文学内審査
3年後期		
↓	12-3月	博士論文口述試験
	12-3月	博士論文審査
	3月	修了(学位授与)
		〈後期提出の場合〉
	10月	博士論文提出(後期提出)
	1月	博士論文学内審査(後期提出の場合)
	4-7月	博士論文口述試験(後期提出の場合)
	4-7月	博士論文審査(後期提出の場合)
	9月	修了(学位授与)

*コースワークとリサーチワークにより指導

社会福祉学専門研究指導Ⅱ

2単位：通年

2年 必修

福島 喜代子、山口 麻衣、高山 由美子、
原島 博、石居 基夫

〔到達目標〕

社会福祉学における研究者として自立して活動し、あるいは指導的な高度の専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につける。

〔履修の条件〕

ソーシャルワークの領域における研究に関心があり、社会科学的な手法による研究を、自立した研究者として、自ら計画、推進し、主査や副査の指導を受けて完成させていきたいという姿勢を有する者。

〔講義概要〕

ソーシャルワークの領域における研究について、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエスションや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。その過程において、指導を受ける。

■授業計画

- 第1回 ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
- 第2回 社会福祉現場における問題意識
- 第3回 研究テーマと先行研究
- 第4回 研究の背景(問題の現状)Ⅰ
- 第5回 研究の背景(制度・政策の整理)Ⅰ
- 第6回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅰ 網羅的に
- 第7回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅱ 網羅的に
- 第8回 先行研究のまとめ(概念)Ⅰ 本稿での概念定義も含め
- 第9回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅰ 網羅的に
- 第10回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅱ 網羅的に
- 第11回 先行研究のまとめ(制度政策・実践報告)Ⅰ
- 第12回 先行研究のまとめ(制度政策・実践報告)Ⅱ
- 第13回 リサーチクエスションや仮説の立て方Ⅰ
- 第14回 リサーチクエスションや仮説の立て方Ⅱ
- 第15回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
- 第16回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
- 第17回 倫理審査に向けての準備
- 第18回 調査の方法(質的調査)Ⅰ
- 第19回 調査の方法(質的調査)Ⅱ
- 第20回 調査の方法(量的調査)Ⅰ
- 第21回 調査の方法(量的調査)Ⅱ
- 第22回 調査結果の分析Ⅰ
- 第23回 調査結果の分析Ⅱ
- 第24回 考察(調査の結果についての総合的な考察)
- 第25回 考察(先行研究との比較)
- 第26回 考察(調査の限界と課題)
- 第27回 考察(ソーシャルワークへの示唆)
- 第28回 研究推進の評価
- 第29回 -
- 第30回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

自立した研究者として、自ら計画、推進し、主査や副査の指導を受けていく姿勢と、博士論文に向けての執筆状況、研究の推進状況を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。自立した研究者として、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエスションや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

個別指導の内容をもとに、博士論文を仕上げていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ディプロマポリシーの「社会福祉学に関する研究者として自立した研究能力を有する」および「社会福祉学の発展に貢献し得る指導的な立場の研究者、教育者、施設・機関の運営管理者、実践家として活躍するための能力を有する」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する幅広い知識と高度な技術を備え、社会福祉学の研究者・教育者、または、社会福祉の実践理論と法政策に通じた施設・機関の運営管理のエキスパートとしての能力と知識がつくことになる。

〔テキスト〕

適宜紹介をしていく。

〔参考文献〕

適宜紹介をしていく。

社会福祉学専門研究指導Ⅲ

2単位：通年

3年 必修

福島 喜代子、山口 麻衣、高山 由美子、
原島 博、石居 基夫

〔到達目標〕

社会福祉学における研究者として自立して活動し、あるいは指導的な高度の専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につける。

〔履修の条件〕

ソーシャルワークの領域における研究に関心があり、社会科学的な手法による研究を、自立した研究者として、自ら計画、推進し、主査や副査の指導を受けて完成させていきたいという姿勢を有する者。

〔講義概要〕

ソーシャルワークの領域における研究について、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエ

スチョンや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。その過程において、指導を受ける。

■授業計画

- 第1回 ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
- 第2回 社会福祉現場における問題意識
- 第3回 研究テーマと先行研究
- 第4回 研究の背景(問題の現状)Ⅰ
- 第5回 研究の背景(制度・政策の整理)Ⅰ
- 第6回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅰ 網羅的に
- 第7回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅱ 網羅的に
- 第8回 先行研究のまとめ(概念)Ⅰ 本稿での概念定義も含め
- 第9回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅰ 網羅的に
- 第10回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅱ 網羅的に
- 第11回 先行研究のまとめ(制度政策・実践報告)Ⅰ
- 第12回 先行研究のまとめ(制度政策・実践報告)Ⅱ
- 第13回 リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅰ
- 第14回 リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅱ
- 第15回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
- 第16回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

自立した研究者として、自ら計画、推進し、主査や副査の指導を受けていく姿勢と、博士論文に向けての執筆状況、研究の推進状況を評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。自立した研究者として、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。

【試験・レポート等のフィードバック】

個別指導の内容をもとに、博士論文を仕上げていく。

【ディプロマポリシーとの関連性】

ディプロマポリシーの「社会福祉学に関する研究者として自立した研究能力を有する」および「社会福祉学の発展に貢献し得る指導的な立場の研究者、教育者、施設・機関の運営管理者、実践家として活躍するための能力を有する」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する幅広い知識と高度な技術を備え、社会福祉学の研究者・教育者、または、社会福祉の実践理論と法政策に通じた施設・機関の運営管理のエキスパートとしての能力と知識がつくことになる。

【テキスト】

適宜紹介をしていく。

【参考文献】

適宜紹介をしていく。

社会福祉学専門研究演習Ⅱ

2単位：通年

2年 必修

福島 喜代子、山口 麻衣、高山 由美子、
原島 博、石居 基夫

【到達目標】

研究者として自立して活動し、あるいは指導的な高度の専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につける。社会福祉学分野における研究者として自立して研究活動を実施し、また、指導的な高度の専門業務に従事できるようになる。

【履修の条件】

ソーシャルワークの領域における研究に関心があり、社会科学的な手法による研究を、自立した研究者として、自ら計画、推進し、指導を受けて完成させていきたいという姿勢を有する者。前期・後期にそれぞれ1度は発表を行うこととする。また、授業に参加し、他の者の研究の発表を聴き、討議に参加し、その理解と考察を深める必要がある。

【講義概要】

ソーシャルワークの領域における研究について、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。その過程において発表する。また、授業に参加し、他の者の研究の発表を聴き、討議に参加し、その理解と考察を深める必要がある。

発表時の資料について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、博士論文を仕上げていく。

■授業計画

- 第1回 ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
- 第2回 社会福祉現場における問題意識
- 第3回 研究テーマと先行研究
- 第4回 研究の背景(問題の現状)Ⅰ
- 第5回 研究の背景(制度・政策の整理)Ⅰ
- 第6回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅰ 網羅的に
- 第7回 先行研究のまとめ(対象者)Ⅱ 網羅的に
- 第8回 先行研究のまとめ(概念)Ⅰ 本稿での概念定義も含め
- 第9回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅰ 網羅的に
- 第10回 先行研究のまとめ(方法・アプローチ)Ⅱ 網羅的に
- 第11回 先行研究のまとめ(制度政策・実践報告)Ⅰ
- 第12回 先行研究のまとめ(制度政策・実践報告)Ⅱ
- 第13回 リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅰ
- 第14回 リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅱ
- 第15回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
- 第16回 調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
- 第17回 倫理審査に向けての準備
- 第18回 調査の方法(質的調査)Ⅰ
- 第19回 調査の方法(質的調査)Ⅱ
- 第20回 調査の方法(量的調査)Ⅰ
- 第21回 調査の方法(量的調査)Ⅱ
- 第22回 調査結果の分析Ⅰ
- 第23回 調査結果の分析Ⅱ

- 第24回 考察(調査の結果についての総合的な考察)
 第25回 考察(先行研究との比較)
 第26回 考察(調査の限界と課題)
 第27回 考察(ソーシャルワークへの示唆)
 第28回 研究推進の評価
 第29回 -
 第30回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

討議や発表による授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。各自自分の研究テーマに基づいた先行研究を調べ、整理し、発表を重ねていく。リサーチクエストあるいは仮説をたて、調査研究をすすめる、その結果や考察について発表を行う。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表時のレポート(レジュメ)について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、博士論文を仕上げていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ディプロマポリシーの「社会福祉学に関する研究者として自立した研究能力を有する」および「社会福祉学の発展に貢献し得る指導的な立場の研究者、教育者、施設・機関の運営管理者、実践家として活躍するための能力を有する」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する幅広い知識と高度な技術を備え、社会福祉学の研究者・教育者、または、社会福祉の実践理論と法政策に通じた施設・機関の運営管理のエキスパートとしての、研究能力が身につくことになる。

〔テキスト〕

適宜紹介をしていく。

〔参考文献〕

適宜紹介をしていく。

社会福祉学学生指導法(プレFD)

1単位：通年

1～3年

福島 喜代子、山口 麻衣、高山 由美子、
原島 博

〔到達目標〕

社会福祉学分野における学識を教授するために必要な能力を培う機会の設定をし、その機会に関する情報を提供することにより、博士後期課程修了後、自らが有する学識を教授することができるようになる。

〔履修の条件〕

これまで高等教育機関で教員等として従事した経験がない者で、将来、高等教育機関において学識を教授することを希望する、本学博士後期課程在籍者。本学学部教授の授業日(平日)に、本学において演習授業への参加(約2回)および講義のコマ(約1回)担当をすることができること。本授業に関して、指導教員の指導を受けることができること。

〔講義概要〕

社会福祉学分野における学識を教授するために必要な能力を培うための機会を設定する。また、その機会に関する情報を提供する。①学生の指導方法、②教材の作成、活用方法について、指導教員からの指導を受ける。また、自らの専門領域の授業の1コマについて、授業を計画し、授業の開催を行い、指導教育と振り返りを行う。

■授業計画

- 第1回 社会福祉学分野における学生の指導方法、教材の作成・活用方法
 第2回 ソーシャルワーク演習への参加(教員補助および学生指導)
 第3回 ソーシャルワーク実習指導への参加(教員補助および学生指導)
 第4回 ソーシャルワーク演習、同実習指導授業の指導の仕方、振り返り
 第5回 授業計画づくり(課題として提出)
 第6回 講義科目の授業を1コマ担当
 第7回 講義授業における指導の仕方、振り返り
 第8回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

学生が有する学識を教授するために、講義授業を計画し、教材を作成、準備したこと、及び、自ら演習授業に参加し、学生の指導を行ったことについて、振り返り、評価を行う。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回あたりおよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。自立した研究者として、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエストや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業計画と、実際の授業の内容・方法について、個別に指導教員からフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ディプロマポリシーの「社会福祉学に関する研究者として自立した研究能力を有する」および「社会福祉学の発展に貢献し得る指導的な立場の研究者、教育者、施設・機関の運営管理者、実践家として活躍するための能力を有する」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学領域における学識を教授すること

ができる能力が身につくことになる。

【テキスト】

適宜紹介をしていく。

【参考文献】

適宜紹介をしていく。

社会福祉調査法Ⅰ	
2単位：通年	1～2年
山口 麻衣	

【科目補足情報】

前期と後期の開講時間が異なる。

【到達目標】

- ①多様な社会福祉調査の方法や分析に関する知識を高める。
- ②量的な調査の多様な方法や分析について学び、分析手法スキルを高める。
- ③ソーシャルワーク実践に役立つ調査研究方法(実践の効果測定、プログラム評価、実践研究、ニーズ分析、評価研究、サービス評価、プログラム評価の考え方と方法について、理解し、説明できる。

【履修の条件】

条件は特にないが、受講者はⅠとⅡの両方を履修が望ましい。

【講義概要】

社会福祉調査の方法や分析に関する知識を高め、社会福祉調査を理解し、実際に調査を担えるソーシャルワーク専門職となるための基礎を養うこととする。社会福祉調査法について体系的に学び、社会福祉調査を行う上での量的調査と質的調査の活用可能性と限界やミックス法を理解する。主に量的調査の学びを深め、統計解析ソフト(SPSS)を用いた分析方法や多変量解析の方法を学ぶ。さらに、ソーシャルワーク実践に役立つ実践の効果測定、実践研究、ニーズ分析、評価研究、サービス評価、プログラム評価の考え方と方法を学ぶ。

■授業計画

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 社会福祉調査の概要 調査方法(量的調査・質的調査)とミックス法、社会福祉調査の目的・意義・課題、アクションリサーチ、エビデンス・ベースド・プラクティス(EBP)と社会福祉調査の関連について学ぶ。 |
| 第2回 | 実践効果測定、実践研究、ニーズ分析、実践評価、社会福祉実践と調査研究について学ぶ。集団比較実験計画法、単一事例実験計画法について学ぶ。 |
| 第3回 | 評価研究・サービスの質の評価、プログラム評価(構造、プロセス、アウトカムの評価)について学ぶ。 |
| 第4回 | 量的調査における仮説構築と検証、統計的検定・サンプリング、測定、変数と尺度、質問紙作成について学ぶ。 |
| 第5回 | 統計ソフトの活用方法と実際について学ぶ。一変数の分析(単純集計、記述統計)について学ぶ。 |
| 第6回 | 二変数の分析(クロス集計 χ^2 検定)について学ぶ。 |
| 第7回 | 二変数の分析(平均の差 t 検定、一元配置分散分析 |

F 検定)について学ぶ。

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第8回 | 二変数の分析(相関分析・単回帰分析)について学ぶ |
| 第9回 | 多変量解析方法の概要、重回帰分析について学ぶ。 |
| 第10回 | ロジスティック回帰分析について学ぶ。 |
| 第11回 | 因子分析について学ぶ。 |
| 第12回 | その他の多変量解析(分散共分散分析など)について学ぶ。 |
| 第13回 | その他の多変量解析(クラスター分析、テキストマイニングなど)について学ぶ |
| 第14回 | その他の多変量解析(共分散構造分析など)と多変量解析まとめについて学ぶ。 |
| 第15回 | レポート提出 |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

レポートは調査研究計画・データ分析・研究課題を学期末にまとめる。その他の評価はリーディング課題/担当分の報告・レジメ提出、授業の積極的な参加。面接授業の出席100%。やむを得ず欠席の場合はレポートで代替できる(3回まで)。30分を過ぎた遅刻は欠席(遅刻3回で欠席1回)とする。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

リーディング課題は全員、事前に読む。テキストの予習・復習、統計分析の自習や統計個別指導の活用を薦める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(博士前期課程)ディプロマポリシーの「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、広い学識と、高度な専門的知識や技術を備え、専門性を必要とするソーシャルワーク専門職として地域社会に貢献する能力を身につけることとなる。(博士後期課程)ディプロマポリシーの「1. 社会福祉学に関する研究者として自立した研究能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、広い学識と、高度な専門的知識や技術を備え、社会福祉学の研究者・教育者、施設・機関の運営管理のエキスパートとしての能力を身につけることとなる。

【テキスト】

テキストは指定しない。

【参考文献】

浦上昌則・脇田貴文(2008)『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書、2,940円。
村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士編(2007)『SPSSによる多変量解析』オーム社、2,940円、笠原千絵・永田祐編著(2013)『地域の〈実践〉を変える社会福祉調査入門』春秋社、2,625円、その他の参考文献は授業で紹介する。

【備考】

担当部分のレジュメ作成・発表を求める。

社会福祉調査法Ⅱ

2単位：通年

1～2年

浅野 貴博

【到達目標】

- ①社会福祉調査法の基礎を学び、研究計画書の作成に向けて各自の研究デザインを描けるようになる。
- ②修士論文の作成に向けて、論文の書き方等の基礎的な知識と技術を習得する。

【履修の条件】

本講義はⅠとⅡに分かれているが、実際は通年科目と同様であるため、ⅠとⅡの双方を履修すること。

【講義概要】

社会福祉調査法について体系的に学び、実際に調査を担えるソーシャルワーク専門職となるための基礎を養うこと目的とする。社会福祉調査法における質的調査について、その前提の考え方をきちんと踏まえた上で、質的調査の様々なアプローチの概要を学ぶ。

■授業計画

- 第1回 研究の基礎：1)研究とは？ 2)“問い”を育む
- 第2回 先行研究の検討の仕方
- 第3回 論文の書き方：アカデミック・ライティング
- 第4回 研究をどのようにデザインするか？：演繹的アプローチと帰納的アプローチ
質的調査法とは？
- 第5回 質的データの集め方①（インタビュー）
- 第6回 質的データの集め方②（インタビュー）
- 第7回 質的データの集め方③（観察＆文書）
- 第8回 ～～前半のまとめ～
研究発表・報告の仕方
- 第9回 質的データの分析①
- 第10回 質的データの分析②
- 第11回 質的データの分析③
- 第12回 質的データの分析④
- 第13回 研究の倫理・ルール
- 第14回 質的調査の評価
- 第15回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

研究計画書の作成に向けて、授業の進行に沿って課題を課す。詳しくは授業時に説明する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習

等)を必要とする。参考文献の読み込み等、各自で主体的に学びを進めることが期待される。

【試験・レポート等のフィードバック】

課題に対するフィードバックは授業時に行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

ディプロマポリシーの「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、研究する上で不可欠な社会福祉調査法に関する高度な専門的知識や技術を備え、専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけることとなる。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要に応じてレジュメおよび資料を配布する。

【参考文献】

- ・日本ソーシャルワーク学会監修(2019)『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック』中央法規出版
- ・笠原千絵・永田祐編(2013)『地域の〈実践〉を変える社会福祉調査入門』春秋社
- ・ウヴェ・フリック(2011)『新版質的研究入門』春秋社
- ※その他の参考文献は授業で紹介する。

臨床心理学専攻

修士課程

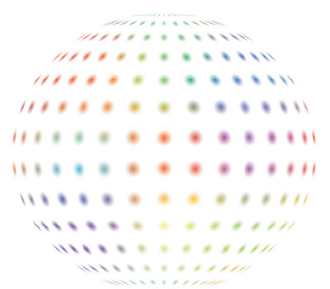


表2-1 総合人間学研究科臨床心理学専攻 修士課程(2025年度)

授 業 科 目 の 名 称		担 当 教 員	配当 年次	単位数又は時間数			開講 状況
				必修	選択	自由	
基礎 研 究 科 目	臨床心理学特論Ⅰ	加 藤 純	1・2	2			閉講
	臨床心理学特論Ⅱ	植 松 晃 子	1・2	2			閉講
	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	石 川 与志也	1・2	2			前期1
	臨床心理面接特論Ⅱ	田 副 真 美	1・2	2			前期1
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	田 副 真 美	1・2	2			閉講
	臨床心理査定演習Ⅱ	植 松 晃 子	1・2	2			閉講
実 習	臨床心理基礎実習Ⅰ	※1	1	1			閉講
	臨床心理基礎実習Ⅱ	※1	1	1			閉講
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	※2	2		1		通年
	臨床心理実習Ⅱ	※2	2		1		通年
特 別 研 究	特別研究A	加藤 純/田副真美/ 植松晃子/石川与志也	1・2	4			通年
	特別研究B		1・2	4			休講
	特別研究コンサルテーションⅠA	谷 井 淳 一	1			1	閉講
	特別研究コンサルテーションⅠB	谷 井 淳 一	1			1	閉講
	特別研究コンサルテーションⅡA	谷 井 淳 一	2			1	前期1
	特別研究コンサルテーションⅡB	谷 井 淳 一	2			1	後期1
専 門 科 目	臨床 心 理 援 助 方 法 研 究 領 域	心理学研究法特論	北 村 英 哉	1・2		2	閉講
		心理統計法特論Ⅰ	谷 井 淳 一	1・2		2	前期1
		心理統計法特論Ⅱ	谷 井 淳 一	1・2		2	後期1
		臨床心理学研究法特論	加 藤 純	1・2		2	閉講
		発達心理学特論	石 川 与志也	2		2	後期1
		教育心理学特論	北 村 英 哉	1・2		2	閉講
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	室 城 隆 之	1・2		2	閉講
		家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	福 山 和 女	1・2		2	後期1
		精神医学特論	倉 本 英 彦	1・2		2	後期1
		心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	中 島 享	1・2		2	閉講
		心理療法特論Ⅰ(交流分析)	白 井 幸 子	1・2		2	閉講
		心理療法特論Ⅱ(児童臨床心理)	加 藤 純	1・2		2	集中
		投映法特論	浦 田 絵 里	1・2		2	閉講
		サイコドラマ特論	谷 井 淳 一	1・2		2	前期1
		心理療法スーパービジョン特論	福 山 和 女	1・2		2	前期1
		福祉分野に関する理論と支援の展開	加 藤 純	1・2		2	閉講
		学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	河 上 純 子	1・2		2	後期1
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	中 村 洸 太	1・2		2	前期1
		心の健康教育に関する理論と実践	田 副 真 美	1・2		2	後期1

授 業 科 目 の 名 称		担 当 教 員	配当 年次	単位数又は時間数			開講 状況
				必修	選択	自由	
専門科目	キリスト教倫理学特論	石 居 基 夫	1・2		2		前期1
	牧会カウンセリング特論	ジェームス・サック	1		2		閉講
	臨床死生学特論	白 井 幸 子	1・2		2		閉講

※1 植松晃子、加藤純

※2 田副真美、植松晃子、加藤純、石川与志也

	日本語論文の書き方(留学生対象)	1・2	2※			閉講
--	------------------	-----	----	--	--	----

※留学生のみ必修 卒業要件単位には含まれない

表2-2 日本臨床心理士資格認定協会指定科目との対照表

日本臨床心理士資格認定協会指定科目			本 学 開 講 科 目					
必修科目		臨床心理学特論	4	基礎研究科目	臨床心理学特論Ⅰ	2	臨床心理学特論Ⅱ	2
		臨床心理面接特論	4		臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	2	臨床心理面接特論Ⅱ	2
		臨床心理査定演習	4		臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	臨床心理査定演習Ⅱ	2
		臨床心理基礎実習	2	実習	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	臨床心理基礎実習Ⅱ	1
		臨床心理実習	2		臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	1	臨床心理実習Ⅱ	1
選択必修科目	A群	心理学研究法特論 心理統計法特論 臨床心理学研究法特論		専門科目	心理学研究法特論	2		
					心理統計法特論Ⅰ	2	心理統計法特論Ⅱ	2
					臨床心理学研究法特論	2		
	B群	人格心理学特論 発達心理学特論、等			発達心理学特論	2		
					教育心理学特論	2		
	C群	社会心理学特論 集団力学特論、等			司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2		
					家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2		
	D群	精神医学特論 心身医学特論、等			精神医学特論	2		
					心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2		
	E群	学校臨床心理学特論 心理療法特論、等			心理療法特論Ⅰ(交流分析)	2		
					心理療法特論Ⅱ(児童臨床心理)	2		
					投映法特論	2		

表2-3 公認心理師に必要な科目

厚生労働省の定める科目名	本学における科目名
保健医療分野に関する理論と支援の展開	心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野に関する理論と支援の展開
教育分野に関する理論と支援の展開	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野に関する理論と支援の展開

厚生労働省の定める科目名	本学における科目名
心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践
心理実践実習	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）

修士論文の基準

1. 修士論文の基準

臨床心理学専攻における修士論文とは、臨床心理学に関する主題に関する研究論文とし、先行研究をもとに具体的な検討課題（研究テーマ）を定め、客観的な研究手法を用いて事実を探索または検証し、考察を加えたものとする。

研究手法としては、調査研究、実験研究、事例研究などのうち課題の探索や検証に相応しい方法を選択するものとし、量的研究、質的研究のいずれも認められる。研究テーマや研究手法や研究結果および考察には一定のオリジナリティのあることが望ましい。

修士論文は研究論文に相応しい体裁を整えたものでなければならない。本文は、研究過程を踏まえて、問題と目的・方法・結果・考察の4要素を含めて構成する。本文の他に、研究の概要、目次、文献一覧、巻末資料、謝辞などを加える。

2. 修士論文の評価

修士論文の評価は以下に示す(1)から(6)までの評価基準に従って評価（論文評価）を行い、最終的に優、良、可、不可の4段階で行われる。この評価は、主査および副査によって口頭試問に先立って実施される。

また、専攻に属する教員全員の前で修士論文発表会兼審査会（口頭試問）が実施され、(1)から(8)までの基準に従い評価（口頭発表の評価）が行われる。

【主査教員、副査教員による論文の評価】

- (1) 先行研究の検討がよく行われているか。
- (2) 文章が論理的で、論旨の展開にも問題点がみられないか。
- (3) 研究方法が適切か、データ分析が正しく行われているか。
- (4) 研究にオリジナリティが認められるか。
- (5) 論文全体の文章が正しいか。誤字・脱字がないか。
- (6) 引用要約が正しくなされているか、巻末の文献が正しく整理されているか。

【修士論文最終発表会での評価】

上記の(1)から(6)の評価に加えて、

- (7) 発表の方法は適切か、正しく結果が伝えられたか。
- (8) 発表の態度や質疑応答が適切であったか。

の2点を加え、各教員毎に、優、良、可、不可の4段階で評価する。

主査教員・副査教員による論文評価に口頭発表の評価を加味して総合的な評価が行われる。最終的な評価は、優、良、可、不可の4段階とする。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

2単位：前期1

1～2年 必修

石川 与志也

〔到達目標〕

ガイダンス/コンサルテーション、カウンセリング、心理療法の基礎技法としての臨床心理面接法の基礎理論および基本的態度を理解すること。精神分析、来談者中心療法、認知行動療法の理論を踏まえ、特に、精神分析の心理療法の基本的態度と技法の基礎理論の理解を中心において、臨床心理面接の基礎を学ぶ

〔履修の条件〕

本学大学院総合人間学研究科・臨床心理学専攻修士課程に正規に在学する院生のみが履修できる。毎回出席すること。原則として欠席が3回を超えた場合は不可とする。また、遅刻二回で欠席一回換算とする。遅刻が授業時間の半分を超えた場合は欠席とする。

〔講義概要〕

臨床の実際におけるガイダンス、カウンセリング、心理療法の基礎技法としての臨床心理面接法の基礎理論の理解を進め、その関連諸科学との関係、技法構成上の基本原理の検討を行う。講義内容は、以下の内容を含む。

1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法
2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
3. その他の心理療法の理論と方法
4. 心理に関する相談、助言、指導等への上記1～3の応用
5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整

なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション：授業の進め方、臨床心理面接法とは何か |
| 第2回 | 心理療法の歴史 |
| 第3回 | 心理療法の理論と方法：三大学派の基礎 |
| 第4回 | 心的変化のプロセス |
| 第5回 | 臨床的態度 |
| 第6回 | クライアントになる |
| 第7回 | 心理療法装置：治療的場の生成と発展 |
| 第8回 | 面接技法の基礎：患者/クライアントから学ぶための準備 |
| 第9回 | 心の中のスーパーヴァイザーを育てること |
| 第10回 | 相互作用的コミュニケーションの形態：転移と逆転移 |
| 第11回 | 心理療法におけるコンテインメントとホールディング |
| 第12回 | 心理療法の手続きとプロセス |
| 第13回 | 臨床心理査定に応じた臨床心理学的処方：ケースフォーミュレーションと介入 |
| 第14回 | 心理療法家の専門性と倫理 |
| 第15回 | レポート |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、

その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

ディスカッションへの主体的な取り組みを評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

テキストおよび配布文献の指定箇所を事前に読んでおくことが課せられる。

また、参考文献を読み進め、基礎理論の理解を深めていくこと。本科目では各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

・提出された課題に対するフィードバックを次の講義内容において行う。

・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目は、ディプロマポリシーに定める「高度な知識や技術を備えた専門家としての業務を担う」ための能力を身につけることを目的とする。特に、臨床心理士・公認心理師に必要な「クライアントを尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し遵守する姿勢と遵守に必要な実践能力」「クライアントの課題を査定・理解し、適切に目標を設定し、目標に向けて臨時的支援を行う能力」の修得を目指す。

〔テキスト〕

特に指定しない。随時、文献を配布する。

〔参考文献〕

- 土居健郎(1961)精神療法と精神分析. 金子書房.
土居健郎(1992)新訂方法としての面接—臨床家のために. 医学書院.
小谷英文編著(2010)現代心理療法入門. PAS心理教育研究所出版部.
アロン・T・ベック(大野裕翻訳)(1990) 認知療法. 岩崎学術出版社.
Casement, P. J. (1985). On learning from the patient. London: Routledge. (松木邦裕訳(1991)患者から学ぶ—ウィニコットとビオンの臨床応用. 岩崎学術出版社)
Fromm-Reichmann, F. (1950). Principles of intensive psychotherapy. Chicago: University of Chicago Press.
Gabbard, G.O. (2010). Long-term Psychodynamic Psychotherapy: A Basic Text, Second Edition. Washington D.C.: American Psychiatric Publishing Inc. (狩野力八郎監訳(2012)精神力動的な精神療法：基本テキスト. 岩崎学術出版社)
Lemma, A. (2016). Introduction to the Practice of Psychoanalytic Psychotherapy. Second edition. West Sussex: John Wiley & Sons.
Rogers, C.R. (1942) Counseling and Psychotherapy. Boston: Houghton Mifflin Company. (末武康弘・諸富祥彦訳(2005)カウンセリングと心理療法. 岩崎学術出版社)
Sandler, J., Dare, C., Holder, A. (1992). The patient and the analyst [2nd edition]. London: Karnac. (藤山直樹・

北山修監訳(2008)患者と分析者〔第2版〕. 誠信書房)
Sullivan, H. S. (1954). The Psychiatric interview. New York : Norton. (中井久夫他訳(1986)精神医学的面接. みすず書房.)
上田勝久(2023)個人心理療法再考. 金剛出版.

〔備考〕

担当教員は、臨床心理士/公認心理師としての臨床現場における実務経験を活かし、臨床心理面接の基礎について講義と指導を行う。

臨床心理面接特論 II	
2単位：前期1コマ	1～2年 必修
田副 真美	

〔到達目標〕

自律訓練法および認知行動療法についての理論、実際に学び臨床現場におけるその有用性を体験的に理解する。自律訓練法および認知行動療法の体験を通し、心身相関の理解や自己理解を深める。

〔履修の条件〕

本学大学院総合人間学研究科・臨床心理学専攻修士課程に正規に在学する院生のみが履修できる。
臨床心理学専攻1年後期の必修科目である。

〔講義概要〕

認知行動療法および自律訓練法を取り上げ、その理論、実際について講義する。また、ロールプレイや体験を通して実践的な技法を学ぶ。後半では、主に医療領域における心理臨床について講義し、事例を提示しグループによる検討や発表の時間も設ける予定である。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 授業のねらい 心理支援とは 自律訓練法とは 認知行動療法とは
第2回	自律訓練法とは 自律訓練法の標準公式の説明と体験 ① 背景公式 ② 第1公式 四肢重感練習 ③ 第2公式 四肢温感練習
第3回	自律訓練法の標準公式の説明と体験 ④ 第3公式 心臓調整練習 ⑤ 第4公式 呼吸調整練習 ⑥ 第5公式 腹部温感練習 ⑦ 第6公式 額部涼感練習
第4回	自律訓練法の実践
第5回	認知行動療法の概要
第6回	認知行動療法の体験と解説：アセスメント①
第7回	認知行動療法の体験と解説：アセスメント②
第8回	認知行動療法の体験と解説：アセスメント③
第9回	認知行動療法の体験と解説：認知再構成法①
第10回	認知行動療法の体験と解説：認知再構成法②

第11回	認知行動療法の体験と解説：問題解決法①
第12回	認知行動療法の体験と解説：問題解決法②
第13回	認知行動療法の実際
第14回	まとめ
第15回	期末レポート

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中のディスカッションやロールプレイングにおける態度、授業内の課題レポート、試験レポートで評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

自律訓練法を講義以外の時間にも実施し、訓練記録を記入する。

認知行動療法の体験では、毎回ホームワークを出し、自宅で実施してもらい、その報告をする。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義内容にて行う。

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「臨床心理の専門家としての使命と社会的責任」、「倫理や法令の理解と遵守」、「クライアントへの臨床的支援能力」、「他職種の専門家と連携する能力」を修得することを目標とする。

〔テキスト〕

必要な資料を適宜配布する。

〔参考文献〕

松岡洋一、松岡素子 「自律訓練法」日本評論社2,500円
伊藤絵美「認知療法・認知行動療法カウンセリング初級ワーク ショップ-CBT カウンセリング」星和書店 2,400円
伊藤絵美・石垣琢磨(監)大島郁葉・安元万佑子(著)「認知行動療法を身につける」金剛出版 2,800円

〔備考〕

体験型の授業のため、遅刻や欠席をしないよう心掛けてほしい。
「実務経験のある教員による科目」医療領域等における心理臨床経験を活かして心理臨床の指導を行う。

臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）

1単位：通年

2年

石川 与志也、田副 真美、加藤 純、
植松 晃子

〔到達目標〕

臨床心理の専門家として現場に立つ総仕上げの意味をもち、実際に現場での実習体験を通じて、その意義や限界、課題について学ぶ。

〔履修の条件〕

本大学院臨床心理学専攻に正規に在籍している学生のみが履修できる。

臨床心理士受験資格と公認心理師受験資格を取得するために必要な科目である。

臨床心理基礎実習で学んだ知識および体験学習が身につけていることを履修の条件とする。

公認心理師に必要な実習時間に該当するため、全ての授業への出席を求める。

大学および実習先へ提出する誓約書の内容に違反した場合は、実習停止となることがある。

〔講義概要〕

講義および演習で学んだ臨床心理学の知識と技術を、学外実習という実際の臨床の場での経験を通して統合していく。毎週所定の日に指定された実習先機関で、公認心理師・臨床心理士の資格を有するスーパーヴァイザーからスーパーヴィジョンを受けながら実習する。陪席、観察、プログラムへの参加、心理査定などを経験し、記録のとり方や細かな配慮、施設内外での連携など心理臨床の実際について学ぶ。学生は授業の中でグループ・スーパーヴィジョンを受け、学外実習先での互いの経験を共有し、考察する。実習担当教員は実習先での実習評価を踏まえて、各学生の学習課題と共に、持ち味や長所を明確にし、専門職としての方向性を定めることを援助する。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 学外施設実習に関する諸注意
第2回	実習準備 実習先での事前オリエンテーションと事前学習の情報をとに、実習先の理解を深める
第3回	前期実習指導①（以下第14回までグループスーパーヴィジョン） 実習への動機と目標を定める
第4回	前期実習指導② 実習記録の役割について理解し、書き方を学ぶ
第5回	前期実習指導③ 実習におけるスーパーヴィジョンの役割と方法について理解する
第6回	前期実習指導④ 各実習先での経験を共有し、まずは実習先施設の理解を深める
第7回	前期実習指導⑤ 各実習先での経験を共有し、実習先利用者のニーズや社会的状況を理解する

第8回	前期実習指導⑥ 各実習先での経験を共有し、実習先の理念や目標を理解する
第9回	前期実習指導⑦ 各実習先での経験を共有し、実習先におけるプログラムの役割について考える
第10回	前期実習指導⑧ 各実習先での経験を共有し、実習先における心理士の役割と姿勢について考察する
第11回	前期実習指導⑨ 各実習先での経験を共有し、体験の中で生じる自身の感情に目を向け、内省を深める
第12回	前期実習指導⑩ 各実習先での経験を共有し、体験の中で生じる自身の感情に目を向け、内省を深める
第13回	前期実習指導⑪ 各実習先での経験を共有し、体験の中で生じる自身の特徴について気づきを得る
第14回	前期実習のまとめ 前期実習で得られた学びを振り返り、後期実習に向けての課題を明確にする
第15回	後期実習指導①（以下第27回までグループスーパーヴィジョン） 観察及び考察の対象を焦点化した上で、改めて実習目標を設定する
第16回	後期実習指導② 観察及び考察の対象を焦点化した上で、改めて実習目標を設定する
第17回	後期実習指導③ 各実習先での経験を共有し、心理的援助の基本である受容と共感について理解を深める
第18回	後期実習指導④ 各実習先での経験を共有し、心理的援助の基本である受容と共感について理解を深める
第19回	後期実習指導⑤ 各実習先での経験を共有し、体験に基づいた臨床心理アセスメントについて考え方と姿勢を学ぶ
第20回	後期実習指導⑥ 各実習先での経験を共有し、体験に基づいた臨床心理アセスメントについて考え方と姿勢を学ぶ
第21回	後期実習指導⑦ 各実習先での経験を共有し、陪席やプログラム参加などの体験を通して、対人援助の姿勢と方法を考察する
第22回	後期実習指導⑧ 各実習先での経験を共有し、陪席やプログラム参加などの体験を通して、対人援助の姿勢と方法を考察する
第23回	後期実習指導⑨ 各実習先での経験を共有し、実習先における心理職の役割と他職種との連携について理解を深める
第24回	後期実習指導⑩ 各実習先での経験を共有し、実習先における心理職の役割と他職種との連携について理解を深める
第25回	後期実習指導⑪ 各実習先での経験を共有し、体験の中で、アセスメントに基づいた対応を模索し実践する
第26回	後期実習指導⑫

各実習先での経験を共有し、体験の中で、アセスメントに基づいた対応を模索し実践する

- 第27回 後期実習のまとめ
後期実習を通して、また1年間の実習を経ての学びを振り返り、今後専門家になるにあたっての自己学習課題を考察する
- 第28回 学外実習発表会
専攻内で各自の実習先での体験と学びを発表する
- 第29回 -
- 第30回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

学外実習の評価・実習記録・グループスーパーヴィジョンでの報告とその考察の内容により総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

学外実習に臨む前に、実習先機関とその専門領域に関する事前学習を行うこと
実習を行う中で、不足している知識を随時文献や専門書において復習すること
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回提出する実習記録については実習先担当教員および実習先スーパーヴィザイザーによるフィードバックを行う。
グループ・スーパーヴィジョンでの発表については、授業内で教員が適宜コメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより、高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「臨床心理の専門家としての使命と社会的責任」、「倫理や法令の理解と遵守」、「クライアントへの臨床的支援能力」、「他職種の専門家と連携する能力」を修得することを目標とする。

〔テキスト〕

特になし。
実習やカンファレンスに有用な文献やテキストは、適宜紹介する。

〔参考文献〕

鎌 幹八郎、名島潤慈「新版心理臨床家の手引」誠信書房
3,800円

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」担当教員それぞれの臨床心理士/公認心理師としての心理臨床経験を活かして実習指導を行う。

臨床心理実習Ⅱ

1単位：通年

2年

加藤 純、田副 真美、植松 晃子、
石川 与志也

〔到達目標〕

臨床心理の専門家として現場に立つ総仕上げの意味をもち、学内附属機関での実習体験を通じて、その意義や限界、課題、倫理的態度について学ぶ。

〔履修の条件〕

本大学院臨床心理学専攻に正規に在籍している学生のみが履修できる。
臨床心理士受験資格を取得するために必要な科目である。
臨床心理基礎実習で学んだ知識および体験学習が身につけていることを履修の条件とする。

〔講義概要〕

講義および演習で学んだ臨床心理学の知識・技術と、学内附属機関という実際の臨床の場での経験を統合していく。学内実習では、クライアントに対してインテーク面接、心理面接、各種心理査定を行い、さらには継続的な面接を担当する。担当した面接について、逐語録記録や面接記録を作成し、定期的に臨床心理士の資格を有するスーパーヴィザイザーからスーパーヴィジョンを受ける。授業では、学生自身が担当した事例をケースレポートにまとめ、ケースカンファレンスにて発表、議論する。ケースカンファレンスで教員や院生の助言を受けることによって、ケース理解を深め今後の方向性の検討を行う。ケース発表を担当しない院生は、カンファレンスで他の院生の発表を聞き、議論に積極的に参加する。受講生は全員、カンファレンス終了後に毎回、当日の発表ケースに関する自身の考えや考察をレポートにまとめ、提出する。以上の取り組みを通して、院生が臨床家としての力量を高める機会とする。

■授業計画

- 第1回 ケースカンファレンスオリエンテーション
カンファレンスの運営の仕方、諸注意を学ぶ
- 第2回 ケースカンファレンス①
院生自身が担当した事例に関してケースレポートにまとめ発表し、ケースレポートのまとめ方や発表方法を学ぶ
ケースを多角的に検討することで、ケース理解を深める
- 第3回 ケースカンファレンス②
- 第4回 ケースカンファレンス③
- 第5回 ケースカンファレンス④
- 第6回 ケースカンファレンス⑤
- 第7回 ケースカンファレンス⑥
- 第8回 ケースカンファレンス⑦
- 第9回 ケースカンファレンス⑧
- 第10回 ケースカンファレンス⑨
- 第11回 ケースカンファレンス⑩
- 第12回 ケースカンファレンス⑪
- 第13回 ケースカンファレンス⑫
- 第14回 前期ケースカンファレンスのまとめ

第15回 後期ケースカンファレンス①

院生自身が担当した事例に関してケースレポートにまとめ発表し、ケースレポートのまとめ方や発表方法を学ぶ

ケースを多角的に検討することで、ケース理解を深める

第16回 ケースカンファレンス②

第17回 ケースカンファレンス③

第18回 ケースカンファレンス④

第19回 ケースカンファレンス⑤

第20回 ケースカンファレンス⑥

第21回 ケースカンファレンス⑦

第22回 ケースカンファレンス⑧

第23回 ケースカンファレンス⑨

第24回 ケースカンファレンス⑩

第25回 ケースカンファレンス⑪

第26回 ケースカンファレンス⑫

第27回 後期ケースカンファレンスのまとめ

第28回 学内実習発表会

2年生全員が、学内で自身が担当したケースのうち一つを選択し、専攻内の報告会で発表する

第29回 -

第30回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

学内実習の評価・実習記録・ケースカンファレンスにおける事例報告とその考察の内容により総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

学内実習およびケースカンファレンスについて、不足している知識を随時文献や専門書において復習することが望ましい。

ケースカンファレンス参加後、毎回その感想・考察レポートを発表者に提出すること。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実習記録やスーパービジョン資料については、学内スーパーバイザーがスーパービジョンの中でフィードバックを行う。

ケースカンファレンスでの発表については、授業内で教員が適宜コメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより、高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「臨床心理の専門家としての使命と社会的責任」、「倫理や法令の理解と遵守」、「クライアントへの臨床的支援能力」、「他職種の専門家と連携する能力」を修得することを目標とする。

〔テキスト〕

特になし。

実習やカンファレンスに有用な文献やテキストは、適宜紹介する。

〔参考文献〕

鑑 幹一郎、名島潤慈「新版心理臨床家の手引」誠信書房 3,800円

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」担当教員それぞれの臨床心理士/公認心理師としての心理臨床経験を活かして実習指導を行う。

特別研究 A(臨床心理援助方法研究)

4単位：通年	1～2年 必修
加藤 純、田副 真美、植松 晃子、石川 与志也	

〔到達目標〕

臨床心理に関する研究課題を設定できるようになる。

設定した研究課題に関する文献研究ができるようになる。

設定した研究課題に関する実証研究ができるようになる。

研究成果を論文にまとめられるようになる。

〔履修の条件〕

「特別研究」は臨床心理学専攻の必修科目である。特別研究を通年4単位を2年間、合計8単位を履修する必要がある。

〔講義概要〕

大学院での個々の講義や演習および実習を通して学んだ臨床心理の理論と技法を統合するため、また臨床心理援助の対象となる課題に関する理解を深めるために、各自がテーマを定めて研究する。2年間を通じて、修士論文作成のための指導を行う。新入生に関しては各自の研究したいテーマや研究方法を考慮して指導担当教員の希望調査を提出する。希望調査を踏まえてゼミ配属が決定される。この後は、担当教員ごとにゼミ形式の授業が実施される。また、1年次に1回、2年次に2回の中間発表を行う。

ゼミでは、各自の進度に合わせて、関心のあるテーマの選定、研究課題としての具体化、文献研究の報告、量的研究方法や質的研究方法の紹介、研究計画書の作成、調査紙の作成、面接調査の練習、研究倫理委員会への提出書類作成、収集したデータの整理と報告、データの分析・考察などを進めていく。

※研究は個別に進むが、下記の講義概要では中間発表や提出物を含めた1,2年ごとの進行状況が概観できるので、参考にしてください。

■授業計画

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | オリエンテーション。特別研究の目的、進め方、履修方法。
各ゼミの紹介。1～2年生の懇談。 |
| 第2回 | 各ゼミでのグループ形成。
1年関心テーマの紹介。
2年春休み中の研究活動の報告。 |
| 第3回 | 各ゼミでのグループ形成。
1年関心テーマの明確化。所属ゼミ希望調査。
2年実証研究実施状況の報告。 |
| 第4回 | 1年文献検索の計画。
2年データ分析の方針検討。 |

- 第5回 1年文献調査の報告。
2年中間報告発表資料の検討。
- 第6回 1年文献調査の報告。
2年中間報告発表資料の検討。
- 第7回 1年リサーチ・クエスチョンの検討。
2年中間報告発表資料の最終確認。
- 第8回 2年中間報告(2年次第1回=通算第2回)
- 第9回 1年研究倫理に関する説明。
2年中間発表に基づくデータ分析方針の再検討。
- 第10回 1年研究方法の検討。
2年データ分析。
- 第11回 1年質問紙またはインタビューガイドの作成・検討。
2年データ分析。
- 第12回 1年調査対象者の検討。
2年データ分析。
- 第13回 1年質問紙などの作成・検討。
2年データ分析。
- 第14回 1年質問紙などの作成・検討。
2年データ分析。
夏休み中の研究活動の計画。
- 第15回 1年「研究倫理委員会申請書」等の検討。
2年分析結果に基づく仮説の考察。
- 第16回 1年「研究計画書」最終確認。
2年分析結果に基づく仮説の考察。
- 第17回 中間発表(1年次第1回=通算第1回)
- 第18回 1年「研究倫理審査申請書」等の修正。
2年「中間発表資料」最終確認。
- 第19回 中間発表(2年次第2回=通算第3回)
- 第20回 1年「研究倫理審査申請書」最終確認。
2年中間発表に基づく結果と考察の再検討。
- 第21回 1年実証研究の準備(面接調査の練習など)。
2年先行研究と関連づけた考察。
- 第22回 1年データ分析の練習。
2年各自の研究の臨床心理的意義の考察。
- 第23回 1年実証研究開始、データ分析の練習。
2年各自の研究の限界と今後の課題。
- 第24回 1年実証研究実施状況の報告。
2年修士論文最終稿ゼミ内で締め切り。
- 第25回 1年実証研究実施状況の報告。
2年修士論文最終稿の修正指示。
- 第26回 1年実証研究実施状況の報告。
2年修士論文提出原稿の確認。
- 第27回 1年春休み中の研究活動の計画。
2年最終発表・口述試験の準備。
- 第28回 2年最終発表会・口述試験
- 第29回 -
- 第30回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(70%)

〔成績評価(備考)〕

授業への参加状況および研究への取り組み、中間発表、その他の課題、研究成果などにより総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各自が研究課題を設定して文献研究・実証研究・論文執筆を進める。研究を進める際に必要となる研究計画書(中間発表資料を兼ねる)、研究倫理審査申請書、説明書や同意書などを作成する。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回の授業で、研究の進捗状況と内容について院生各自からの報告を受け、院生同士で意見交換し、指導教員からコメントする。

研究計画書、研究倫理審査申請書、説明書・同意書、最終発表会配布資料など、院生が作成した原稿をゼミで検討し、必要に応じて面談またはメールなどで個別に修正方針を伝える。

中間発表会に院生と教員が全員参加し質疑応答をする他、発表会後に個別にも助言する。

提出された修士論文に対し、口述試験の際に主査・副査から評価を伝え、修正箇所を指示する。評価表の自由記述部分を渡す。最終発表会に出席した教員も質疑応答に参加する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める臨床心理の専門家としての使命と社会的責任を自覚し、生涯にわたる研鑽の必要性を認識し、研鑽に必要な研究能力や指導を受ける能力を有し、さらに研究を通して倫理や法令の理解と遵守、クライアントへの臨床的支援や他職種の専門家との連携の観点やその能力を修得することを目標とする。

〔テキスト〕

特に定めない。

〔参考文献〕

研究内容に関する文献は各自が研究テーマに合わせて収集する。実証研究の方法やデータ分析に関する文献は各自の研究方法に合わせて収集する。論文の書き方に関して自分に合った文献を見つけて手許において参照することを勧める。

特別研究コンサルテーションⅡA

1単位：前期1コマ

2年

谷井 淳一

〔科目補足情報〕

I A、IB、II A、II Bという記号がついているのは、1年生がI、2年生がII、それぞれ、前期がA、後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。つまり、最大で4科目すべて履修可能である。

〔到達目標〕

修士論文作成時に、統計的処理の仕方に疑問や迷いが生じたりした際、相談に応じる科目である。もともと、私(谷井)が、今年度から非常勤になったため特別研究の指導から離れることになった。このような状況の中で、学生さんの立場で言うと、修士論

文の指導、特に統計分析についてを私(谷井)から受ける余地を残そうとしてできた科目である。ただし、そうはいつでも私が他の先生と比べとりわけ、統計的手法に精通しているわけではないので、私にできるのは、これまで私が授業で教えてきたことを、個々の学生さんの研究に当てはめて検討することである。

具体的には、因子分析の因子数や因子名を一緒に考えたり、分散分析や相関分析の結果を、実例に則して考察したりすることなどはできると思う。

授業は、1単位なので、2週間に1度くらいの頻度で実施する。

〔履修の条件〕

それで、ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBという記号がついているのは、1年生がⅠ、2年生がⅡ、それぞれ、前期がA、後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。つまり、重複履修が可能となるように、記号を変えているということである。

〔講義概要〕

希望を受講者のほうから出してほしい。

■授業計画

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 受講者の研究を谷井にプレゼンしてもらう。それで受講者の研究の把握をしておきたい。 |
| 第2回 | 打ち出した出力結果をいかにうまく、表や図としてまとめるか。を指導する。 |
| 第3回 | 出力結果がまとまったならば、その結果が意味するものを一緒に考えて、検討する。 |
| 第4回 | これを繰り返すことになる。 |
| 第5回 | 自分の研究の統計分析結果をコピーしやすい形でコンパクトな用紙にまとめて持参してください。 |
| 第6回 | 同上 |
| 第7回 | 同上 |
| 第8回 | 同上 |
| 第9回 | 同上 |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(100%)

〔成績評価(備考)〕

積極的に分析結果を持ち寄ってくれていれば、そのことで評価する

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

分析結果を持ち寄ることから始まる。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各段階ごとに進行具合をチェックし、それに対して、フィードバックを行ってすすめていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目はディプロマポリシーに定める課題の発見能力、先行

研究の収集分析能力、実証的研究の計画・遂行能力、データの分析能力、アカデミックな文書の作成能力を育成することを目的にする

〔テキスト〕

特になし

〔参考文献〕

「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」小塩真司著 東京書籍(ISBN 4-489-00675-6)

〔備考〕

とくになし

特別研究コンサルテーションⅡB

1単位：後期1コマ

2年

谷井 淳一

〔科目補足情報〕

ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBという記号がついているのは、1年生がⅠ、2年生がⅡ、それぞれ、前期がA、後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。つまり、最大で4科目すべて履修可能である。

〔到達目標〕

修士論文作成時に、統計的処理の仕方に疑問や迷いが生じたりした際、相談に応じる科目である。もともと、私(谷井)が、今年度から非常勤になったため特別研究の指導から離れることになった。このような状況の中で、学生さんの立場で言うと、修士論文の指導、特に統計分析についてを私(谷井)から受ける余地を残そうとしてできた科目である。ただし、そうはいつでも私が他の先生と比べとりわけ、統計的手法に精通しているわけではないので、私にできるのは、これまで私が授業で教えてきたことを、個々の学生さんの研究に当てはめて検討することである。

具体的には、因子分析の因子数や因子名を一緒に考えたり、分散分析や相関分析の結果を、実例に則して考察したりすることなどはできると思う。

授業は、1単位なので、2週間に1度くらいの頻度で実施する。

〔履修の条件〕

それで、ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBという記号がついているのは、1年生がⅠ、2年生がⅡ、それぞれ、前期がA、後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。

つまり、重複履修が可能となるように、記号を変えているということである。

〔講義概要〕

自分の研究の統計分析結果をコピーしやすい形でコンパクトな用紙にまとめて持参してください。ページ番号を振ってください。人数分を谷井がコピーします。

■授業計画

- | | |
|-----|--------------------------|
| 第1回 | 受講者の研究を谷井にプレゼンしてもらう。それで受 |
|-----|--------------------------|

- 講者の研究の把握をしておきたい。
- 第2回 打ち出した出力結果をいかにうまく、表や図としてまとめるか。を指導する。
- 第3回 出力結果がまとまったならば、その結果が意味するものを一緒に考えて、検討する。
- 第4回 これを繰り返すことになる。
- 第5回 自分の研究の統計分析結果をコピーしやすい形でコンパクトな用紙にまとめて持参してください。
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(100%)

【成績評価(備考)】

積極的に分析結果を持ち寄ってくれていれば、そのことで評価する

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

分析結果を持ち寄ることから始まる。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

各段階ごとに進行具合をチェックし、それに対して、フィードバックを行ってすすめていく。

【ディプロマポリシーとの関連性】

この科目はディプロマポリシーに定める課題の発見能力、先行研究の収集分析能力、実証的研究の計画・遂行能力、データの分析能力、アカデミックな文書の作成能力を育成することを目的にする

【テキスト】

特になし

【参考文献】

「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」小塩真司著 東京書籍(ISBN4-489-00675-6)

【備考】

とくになし

心理統計法特論Ⅰ

2単位：前期1コマ

1～2年

谷井 淳一

【科目補足情報】

グループ作業としての授業を予定している。そのため、学部の問題紙調査法と合同で実施する。

【到達目標】

- ①質問紙調査の方法を実習し理解する。
- ②因子分析の方法を体験的に学ぶ。

【履修の条件】

心理学を学部で学んでいない人もいるので、初歩的な内容から始めて、丁寧に講義し論文が書けるレベルまでを目指す。

【講義概要】

質問紙調査の方法について体験的に学んでいく。
グループで実際に調査票を作成し、調査実施する。得られたデータをパソコンを用いて入力しデータをチェックする方法を学ぶ。そののち、因子分析を用いて、項目内容を精選する。これら一連の流れを体験的に実習する。この授業を通じて言葉のセンスを磨いてほしい、特に、自分が作成した項目が、調査協力者にどのように受け取られ反応が返ってくるかを体得することが大切である。質問紙に記入している調査対象者がどのように応答しているかを想像できるようにデータを読み取る力をつけてほしい。質問紙を作るまでのプロセスは質的研究に近いものなので、自分は質的な研究をしたいと考えている人も、質問紙作成の体験は是非真剣に取り組んでほしい。

■授業計画

- 第1回 因子分析を用いた論文を探す
質問紙尺度を用いた研究事例
- 第2回 因子分析表の見方
- 第3回 グループ分けと構成概念表の作成1
(グループごとに、論文を選び、その論文中の因子分析結果を参考にしながら、質問紙尺度の改訂版、その概念表を作成する)
- 第4回 グループ分けと構成概念表の作成2
- 第5回 調査票の作成
- 第6回 尺度の水準とワーディング
- 第7回 Web 調査の方法
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データ入力とデータチェック
- 第10回 因子分析の方法
- 第11回 因子数の決定と因子の命名
- 第12回 因子分析表の整理
- 第13回 下位尺度別に男女別の平均値・標準偏差を算出し t 検定の実施
- 第14回 相関の算出と表作成
- 第15回 レポートの作成

【成績評価】

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

質問紙調査実施から分析するまで、グループ作業として実施したことをレポートしてもらう。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

復習を中心に定着を図ることが望まれる。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各段階ごとに進行具合をチェックし、それに対して、フィードバックを行ってすすめていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目はディプロマポリシーに定める課題の発見能力、先行研究の収集分析能力、実証的研究の計画・遂行能力、データの分析能力、アカデミックな文書の作成能力を育成することを目的にする

〔テキスト〕

「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著 北大路書房 (ISBN 978-4-7628-2295-7)

(学部で使用している教科書である。この教科書でなくてもいいが、何か一つ統計の教科書を持っていたほしい)

〔参考文献〕

「社会心理学研究入門」末永俊郎編 東京大学出版会
「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」小塩真司著 東京書籍 (ISBN 4-489-00675-6)

〔備考〕

昨年作成した動画 (YouTube を活用) も適宜利用したいと考えている。

心理統計法特論 II

2単位：後期1コマ

1～2年

谷井 淳一

〔到達目標〕

- ①多変量解析の色々を理解し、適切に分析方法を選択できる力をつけること。
- ②各自の研究目的に従って、どのような分析方法が望ましいかを判断し、適切な研究計画をたてる力を育成する。

〔履修の条件〕

心理統計法特論 I を履修済みであることが必要。ただし、学部段階で心理統計法および質問紙法を履修し理解している場合は、後期から受講してもらってもよい。

〔講義概要〕

多変量解析の代表として重回帰分析について詳しく解説する。さらに、主成分分析、因子分析、判別分析、共分散構造分析などについてその違いを理解できるよう指導する。分散分析、とくに主効果や交互作用について詳しく学ぶ。
最後に4-5時間程度、基礎的な統計の考え方(推測統計の基礎)について講義する。

■授業計画

- 第1回 多変量解析について
- 第2回 重回帰分析をパソコンでやってみる
- 第3回 重回帰分析の理論的理解
- 第4回 色々な分析のパスモデルとしての表現
最小二乗基準と微分

- 第5回 主成分分析と固有値主成分分析と固有値
因子分析と回転

- 第6回 共分散構造解析

- 第7回 判別分析とクラスター分析

- 第8回 ロジスティック回帰分析

- 第9回 1要因分散分析と多重比較

- 第10回 2要因分散分析と交互作用

- 第11回 下位検定のいろいろ

- 第12回 帰無仮説の考え方

- 第13回 z の表の見方と1.96の意味

- 第14回 統計的検定について、 z 検定、 t 検定

- 第15回 対応のない検定と対応のある検定

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

統計法は結局実際に自分で調査して自分のデータをとって分析して初めて理解が深まる。そのための体験としてこの授業における実習が大切である。後期の授業はアラカルト的な授業なので、レポートはその体験の感想程度のものを A4判用紙で1枚程度書いてもらえばよい。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

確実に復習して知識の定着をはかってほしい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各段階でチェックをしながら実施する。授業中に、必要に応じてフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目は、ディプロマポリシーに定める課題の発見能力、先行研究の収集分析能力、実証的研究の計画・遂行能力、データの分析能力、アカデミックな文書の作成能力を育成することを目的とする。

〔テキスト〕

プリントを用意する。

〔参考文献〕

「心理統計学の基礎-統合的理解のために」南風原朝和著有斐閣アルマ

「心理・教育のための多変量解析法入門-基礎編&事例編」渡辺洋著 福村出版

〔備考〕

とくになし

発達心理学特論

2単位：後期1コマ

2年

石川 与志也

【到達目標】

1. 人間のこころの発達の基盤となる早期発達の母子関係(を中心とした対人関係)に関わる理解を深める。
2. 発達心理学および精神分析学の早期発達に関わる考え方を学ぶ
3. 知的理解のみではなく、自分自身のこころを使って早期発達に関わる現象を理解する姿勢を学ぶ

【履修の条件】

- ・人間のこころに対する好奇心を持っていること
- ・自ら積極的にディスカッションに参加し、学び合おうとする姿勢をもっていること

【講義概要】

講義の初期には講師による講義を通して発達早期の母子関係(を中心とした対人関係)に関して基礎的な理解を身につける。その後、発達心理学と精神分析学の発達早期の母子関係に関わる論文および絵本を読み、人間のこころへの理解を深め、それぞれの好奇心を活性化するような講義となることを目指す。発達早期の母子関係(を中心とした対人関係)の理解を深めることは、臨床場面子どもや母親に関わる(予定の)者だけでなく、すべての年齢層の患者・クライアント・利用者を対象とした臨床を行う者にとって、意義深く役に立つものとなる。

なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション：発達早期の母子関係を学ぶことの意義について |
| 第2回 | 早期発達理解の基礎1：メラニー・クライン |
| 第3回 | 早期発達理解の基礎2：ドナルド・ウィニコット |
| 第4回 | 早期発達理解の基礎3：ウィルフレッド・ビオン |
| 第5回 | 文献購読1：顔と表情—乳児の鏡としての母親の顔 |
| 第6回 | 文献購読2：2カ月児との会話 |
| 第7回 | 文献購読3：乳児の情緒と情緒のコミュニケーション |
| 第8回 | 文献購読4：かいじゅうたちのいるところ |
| 第9回 | 文献購読5：赤ちゃん部屋のおばけ：傷ついた乳幼児—母親関係の問題への精神分析的アプローチ |
| 第10回 | 文献購読6：夜の中へ—子どもの夢の本 |
| 第11回 | 文献購読7：デッドマザー・コンプレックス |
| 第12回 | 文献購読8：乳幼児観察に関わる論文1 |
| 第13回 | 文献購読9：乳幼児観察に関わる論文2 |
| 第14回 | まとめ：母子関係の理解とその後の発達・成熟におけるその意義について |
| 第15回 | レポート |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

授業中のディスカッションへの参加および発表内容を評価する

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

配布文献の指定箇所を事前に読んでおくことが課せられる。また、参考文献を読み進め、基礎理論の理解を深めていくこと。そして、発表担当論文について、レジュメを作成し、他者に伝えられるような発表ができるよう準備しておくこと。

本科目では各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

【ディプロマポリシーとの関連性】

この科目は、ディプロマポリシーに定める「高度な知識や技術を備えた専門家としての業務を担う」ための能力を身につけることを目的とする。特に、臨床心理士・公認心理師に必要な「クライアントを尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し遵守する姿勢と遵守に必要な実践能力」「クライアントの課題を査定・理解し、適切に目標を設定し、目標に向けて臨床的支援を行う能力」の修得を目指す。

【テキスト】

随時、文献を配布する。

【参考文献】

- ジョーン・ラファエル・レフ〔木部則雄監訳〕(2011)母子臨床の精神力動。岩崎学術出版社
- アレクサンドラ・ピオンテリ〔鶴飼奈津子監訳〕(2021)胎児から子どもへ—その連続性と心の生まれるところ。金剛出版
- モーリス・センダック〔じんぐうてるお〕(1975)かいじゅうたちのいるところ。富山房
- マーガレット&マイケル・ラスティン〔松木邦裕監訳〕(2021)リーディング・クライン。金剛出版
- ルディ・ヴェルモート〔松木邦裕監訳〕(2023)リーディング・ビオン。金剛出版

その他、随時授業で紹介する。

【備考】

「実務経験のある教員による科目」担当教員は、臨床心理士/公認心理師としての臨床現場における実務経験を活かし、発達心理学の基礎について講義と指導を行う。

家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

2単位：後期1コマ

1~2年

福山 和女

【到達目標】

機能不全・崩壊の危機に陥っている家族への支援をしている支援者へのコンサルテーションの実践を検討できる。

〔履修の条件〕

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科在学生・研究生・科目等履修生。社会福祉専攻課程協議会加盟校大学院生

〔講義概要〕

家族システムの捉え方、力動、介入について、様々なタイプの事例を家族療法、ストレス、精神分析、組織論を適用して検討できるように学ばせる。家族支援を実施している支援者に対するコンサルテーションの知識、技術、方法を学ばせる。

■授業計画

- 第1回 家族システム論(講義)
- 第2回 コンサルテーション論(講義)
- 第3回 家族支援に危機介入理論の適用と、コンサルテーションの必要性(演習)
- 第4回 家族支援の現状と課題(講義と演習)
- 第5回 支援者が抱える家族支援の困難と、家族ダイナミクスと支援者のストレスとの交互作用現象(講義と演習)
- 第6回 家族支援の支援者の困難と組織の中の責務と立場によるリーダーシップ論、組織論(講義と演習)
- 第7回 支援機関における人間関係と家族支援の担当家族と支援者とのアイソモρφイズム(異種同型)について(演習)
- 第8回 家族支援の事例に対するコンサルテーションの介入計画(演習)
- 第9回 組織ストレスと支援者のストレスとの関連性と組織で発生しているスタッフの困難性を解決する視点(演習)
- 第10回 担当する家族における関係上の三角形と組織での支援者とスタッフにおける関係上の三角形の類似性(演習)
- 第11回 家族構造のなかでも世代間伝承の概念を適用し、家族理解(演習)
- 第12回 家族の機能不全について分析と支援するためのコンサルテーション計画(演習)
- 第13回 家族支援のコンサルテーションの実施計画書作成とリスクマネジメントから評価(演習)
- 第14回 家族支援のコンサルテーションの効果について(演習)
全14回のプロセスを統括させ家族支援のコンサルテーションの意義を理解(講義と演習)
- 第15回 -

〔成績評価〕

試験(20%)、レポート(40%)、小テスト(10%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

面接授業の出席100%。ただし、やむを得ず講義に出席できない場合はレポートで代替できるが、代替を認めるのは研修全体のうち3回までとする。

・やむをえない遅刻は授業開始から30分までとする。30分を過ぎた場合は、欠席とする。遅刻3回で欠席1回までとみなす。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

家族療法とコンサルテーションについては理論的背景などについて学習をしておくこと。また、現場で必要とされる知識について、ある程度の理解ができるように予習をしておくこと。復習に関して

は、講義の中で指摘した個所の理解を深め、コンサルテーション実践に適用できるかどうかを点検すること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートなどで、習得した内容についての確認を行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める2. クライアントを尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し遵守する姿勢と遵守に必要な実践能力を有する。4. 他職種の専門家と連携して、クライアントを支援するとともに、臨床心理の知見を地域社会に還元し、貢献する能力を有する「倫理や法令の理解と遵守」「クライアントへの臨床的支援能力」を習得することを目標とする

〔テキスト〕

ISBN 978-4-7724-1193-6 C3011『家族療法のスーパーヴィジョン—統合的モデル—』日本家族研究家族療法学会評議会 金剛出版 3800+税

〔参考文献〕

・ISBN 978-4-7724-0783-0『臨床家のための家族療法リソースブック総説と文献105』日本家族研究家族療法学会 金剛出版 4200円+税

精神医学特論

2単位：後期1コマ

1～2年

倉本 英彦

〔科目補足情報〕

開講は後期1コマ(1・2年)とする

〔到達目標〕

心理職・福祉職・医療職は協働することが多く、共通の専門的知識を有することが必要である。そのもつとも基礎となる知識体系である精神医学を学び、身体、精神、社会と文化という側面からの多角的なアプローチができるようにする。

〔履修の条件〕

臨床心理学専攻生・社会福祉学専攻生で、履修登録を行った者。

〔講義概要〕

精神医学とは何だろうか?臨床心理学や社会福祉学との関連から位置付けてみよう。精神医学の方法論は?生物、精神、心理、社会的次元から探ってみよう。精神科医療の現状とは?日本と世界の精神科医療の実際を知ろう。精神障害とは?異常と正常、病気と健康、精神の病とは何か。精神障害の歴史や概念、そして原因、症状、疫学、診断、治療、予後、リハビリテーションなど、個々の疾患の特徴を体系的に学ぼう。授業形態については、基本的に講義形式になるが、わかりやすいようにDVD映像を使用したり、トピックに沿った発表形式で行うことにする

■授業計画

第1回	オリエンテーション 精神医学入門
第2回	異常と正常、病気と健康、素質と環境
第3回	精神症状、状態像、症候群、精神障害の体系、精神疾患概念の歴史
第4回	心因によるもの(1) 心身症、神経症とストレス関連障害
第5回	心因によるもの(2) 睡眠・摂食・性関連障害
第6回	内因によるもの(1) 統合失調症
第7回	内因によるもの(2) 気分障害
第8回	器質因によるもの(1) 脳の急性障害
第9回	器質因によるもの(2) 脳の慢性障害
第10回	器質因によるもの(3) アルコール・薬物関連障害
第11回	児童・青年期精神医学(1) 情緒と行動の問題
第12回	児童・青年期精神医学(2) 発達障害
第13回	性格のかたより、パーソナリティ障害
第14回	精神保健福祉法 司法精神医学
第15回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(40%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

臨床職に就くものとして適切で積極的な授業へのかかわりも考慮する

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

予習：シラバスに沿った箇所の教科書や文献をあらかじめ読んでおく

復習：講義内容や発表をよく振り返り、ノートにまとめる
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計14回の授業で45時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された当日か次回に行う。

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより、ディプロマポリシーにある、広い学識と、高度な専門的知識や技術を備え、専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけることができる。なお、臨床心理士や公認心理師の資格を取得しようとする者には、「専門職としての使命と社会的責任」「倫理や法令の理解と順守」「クライアントへの臨床的支援能力」「他職種の専門家と連携する能力」の修得を目指す。

〔テキスト〕

山下格・大森哲郎著『精神医学ハンドブッカー医学・保健・福祉の基礎知識第8版』日本評論社、ISBN 978-4-535-98427-1、C3047、2,400円

〔参考文献〕

倉本英彦著『思春期のこころの問題と予後』ナカニシヤ出版、

2,600円

倉本英彦著『つまり若者たちー思春期臨床の現場から』日本評論社1,600円

〔備考〕

毎回、テキストと各自用意した本科目専用ノートを持参すること

心理療法特論Ⅱ(児童臨床心理)

2単位：集中	1～2年
加藤 純	

〔到達目標〕

- 1) 子どもや家族の視点・感じ方・望みを尊重する姿勢を学ぶ。
- 2) 理論と実践とを結びつけて子どもや家族を援助する力を養う。
- 3) 子どもと面接する際のコミュニケーションの基本技法を身につける。

〔履修の条件〕

- 1) 臨床心理士受験資格を取得するために必要なE群の科目です。本大学院総合人間学研究科臨床心理学専攻に正規に在籍している院生のみが履修できます。公認心理師科目ではありません。
- 2) 前提となる科目などは特に定めません。

〔講義概要〕

理論と実践の結びつきについて事例検討やロールプレイなどを交えて学びます。アクスラインによる遊戯療法、ダギー・センターでのグリーフケア、ジョイス・C・ミルズによる治療的比喩、アタッチメント理論などを紹介します。参加者の関心や経験に合わせて、内容や進行方法の変更も可能です。

■授業計画

第1回	導入とオリエンテーション a) 大人の面接と子どもの面接の違い。b) この科目の目標。 c) 授業の進め方。
第2回	アクスラインの児童中心療法における遊戯療法の八原則 言葉を反映する技法(アクスライン)
第3回	行動を反映する技法(アクスライン)
第4回	遊びや絵を反映する技法(アクスライン)
第5回	子どもの遊びの比喩的・象徴的な意味(ドノヴァン)
第6回	遊びの象徴的な意味に対する応答の方法(ダギー・センター、大谷嘉朗・吉澤英子、田中万里子)
第7回	遊びへの参加と役割理論(ダギー・センター)
第8回	遊戯療法の様々なアプローチ(精神分析、ユング心理学、学習理論の考え方に基づく事例検討)
第9回	治療空間が持つ治療的な意味(ドノヴァン) 制限が持つ治療的な意味(アクスライン)
第10回	治療的比喩を用いた支援(ミルズ) 絵本やストーリーを用いた支援(ミルズ)
第11回	面接の開始と終了における時間の制限・責任の制限の意義と実際(アクスライン)
第12回	アタッチメント理論に基づくアセスメント(ボウルビー、エインズワース、クリテンデン)

- 第13回 親と乳幼児の合同面接の事例を読む(発達理論の活用、治療理論の活用)
- 第14回 ナラティブ・セラピーによる児童臨床事例(マイケル・ホワイト)
- 第15回 レポート提出

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

レポート(1)は、文献を読んで内容をノートにまとめる課題です。レポート(2)は、理論と実践の関連づけについて児童臨床心理を通して学んだことを各自の関心と結びつけて論じてください。その他の評価方法は、ロールプレイや事例検討への参加状況、自己評価などです。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業中に事例についてグループディスカッションをします。事前に事例を読んで来てください。また、検討する事例の出典は下記の本です。授業中には一部しか紹介できません。特に『開かれた小さな扉』は読みやすく、とても優れた内容です。一冊を通して読むことをお勧めします。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

期末レポートはドロップボックスを通して提出してください。提出されたレポートにオンライン上でコメントします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目は、ディプロマポリシーに定める「広い学識と、高度な専門的知識や技術を備え、専門性を必要とする職業を担うための優れた能力」を身につけることを目的とします。特に、臨床心理士に必要な「クライアントへの臨床的支援能力」の修得を目指します。

〔テキスト〕

授業中に資料を配付します。下記の文献を適宜お読みください。

〔参考文献〕

- V. アクスライン(岡本訳, 1987)『開かれた小さな扉』日本エディタースクール出版部。
- D.M. ドノヴァン、D. マッキンタイア(西澤哲訳, 2000)『トラウマをかかえた子どもたち』誠信書房。
- 河合隼雄(1990)『事例に学ぶ心理療法』日本評論社
- R. J. Crowley, J. C. Mills(1986) Therapeutic Metaphors for Children and the Child Within. Brunner/Mazel Publishers.
- 三上謙一(2023)『臨床に活かすアタッチメント』岩崎学術出版社
- その他の資料は、授業の流れと参加者の関心に応じて随時紹介します。

サイコドラマ特論

2単位：前期1コマ

1～2年

谷井 淳一

〔科目補足情報〕

ある程度の人数が必要なので、学部のサイコドラマⅡの授業と合同で行う(月曜3時間目)。昨年度履修済みの学生の聴講生としての履修も歓迎する。

〔到達目標〕

- ①集団心理療法の1つであるサイコドラマを体験し、その目的を理解する。
- ②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
- ③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
- ④サイコドラマの監督として、サイコドラマを実施する方法を学び、集団に対してのセラピストの立ち位置を学ぶ。

〔履修の条件〕

サイコドラマは集団心理療法の一つで、セラピーの実際をグループで体験できる良さがある。臨床心理士を目指して学習する上で、主役や監督体験をすることは、個人治療としてのクライアント体験やセラピスト体験につながる大きな経験となる。授業を通じて、自己理解や他者理解を深めて欲しい。

〔講義概要〕

(1) サイコドラマの目的

サイコドラマは、即興的なドラマ表現を媒介として、個人に自己理解あるいは自己洞察をもたらすことを期待した心理療法である。臨床心理学を学ぶものとして、個人を対象にした技法とともに集団を対象としたスキルを身につけることも将来的に必要となる。そこで、集団心理療法の1つである「サイコドラマ」を体験的に学習する。

(2) サイコドラマの構成

サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し体験的に学ぶ。

(3) サイコドラマの要素

サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法について体験的に理解をはかる。

(4) 将来、病院でのデイケアなどの仕事に就く場合、グループを対象とした活動を実施する場合がある。その方法の一つとして、サイコドラマは非常に役に立つ技法である。グループワークの一つとして、自分が癒される体験をするとともに、監督としてサイコドラマを実施するためのスキルを学ぶ。

■授業計画

- 第1回 サイコドラマの構成と5つの要素。ダブル、ミラー、役割交換の理解。サイコドラマのシナリオを読み合わせをする(ロールプレイ)。このことにより、サイコドラマの限界や注意点についても理解をはかる。
- 第2回 ウォーミングアップの実際。「忘れられない思い出」を

- テーマにしたドラマ体験
- 第3回 「エンブティチュア」をテーマにしたドラマ体験
- 第4回 「カードからメッセージをもらう」をテーマにしたドラマ体験
- 第5回 監督体験をするにあたっての理論的理解「ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割」
- 第6回 ロールリバーサルを使い方
- 第7回 主役選択の方法とファストインタビュー
- 第8回 ファストシーンを創る
- 第9回 セカンドシーンを探す
- 第10回 総合的監督体験とレビュー1
- 第11回 総合的監督体験とレビュー2
- 第12回 総合的監督体験とレビュー3
- 第13回 総合的監督体験とレビュー4
- 第14回 総合的監督体験とレビュー5
- 第15回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

授業への積極的参加を期待しています。色んな役割を自発的にとってください。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

以下の内容をレポートにしておいてください。その日の役割やその日感じたことメモしておいてください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(復習等)を必要とする。

- (1)各回ごとにどんな役割(主役・補助自我・観客)をして、何を感じたか。
- (2)サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
- (3)自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
- (4)監督体験はどうであったか、何か感じたことがあったか。

以上のような観点で、主役体験・監督体験についてA4用紙で2枚程度、合計4枚程度でレポートできるようにしておいて下さい。

【試験・レポート等のフィードバック】

毎時間、シェアリングとレビューを行い、各授業のポイントを解説し、フィードバックを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

この科目はディプロマポリシーに定めるクライアントの課題を査定・理解し、適切に目標を設定し、目標に向けて臨床的支援を行う能力を身につけることを目的とする。特に主役のテーマを的確に把握して適切なドラマを進行する方法を学習する。

【テキスト】

とくになし、必要があれば参考文献を参照してください。

【参考文献】

谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」(日本評論

社)

高良聖著「サイコドラマの技法」(岩崎学術出版)

磯田雄二郎著「サイコドラマの理論と実践」(誠信書房)

【備考】

ー

心理療法スーパービジョン特論

2単位：前期1コマ

1～2年

福山 和女

【到達目標】

心理療法の各論理に基づくスーパービジョンについてその方法と技術を習得する。

【履修の条件】

本学大学院総合人間学研究科・臨床心理学専攻修士課程に正規に在学する院生のみが履修できる。

履修者の目標設定に基づく。参加型形式をとる。履修者が目標達成に積極的に取り組むことを要請する。

スーパービジョン体験が中心である。

【講義概要】

対人援助、特に心理療法に焦点を当て、スーパービジョンについて、理論と平行して実践的な研究を進めていく。臨床現場では、心理療法家はクライアントの的確な見立てが実践できるように、いくつかの方法論を適用し、治療構造の計画を立て、心理療法が実践できることを求められている。専門家にとっては、自己の分析、自己評価、自己覚知を通して訓練することが必須条件である。本講義では、レーニング・プロセスにスーパービジョンの概念と方法を適用し、心理療法家の養成プロセスを段階的に体験する学習方法を採用する。

■授業計画

- 第1回 スーパービジョンの歴史の変遷と日本におけるあゆみ
- 第2回 スーパービジョンの必要性と機能
- 第3回 組織、職位、職種からのスーパービジョンの貢献
- 第4回 心理療法の初心者に対するスーパービジョンの理論と方法
- 第5回 介入開始期での中堅援助者に対するスーパービジョンの理論と方法
- 第6回 問題の変革期への働きかけ組織レベルでの対応スタッフ関係に焦点を当てる。
- 第7回 心理支援の変革期におけるスーパーバイザー初心者の視点に焦点を当てる。
- 第8回 心理支援の安定期における中堅のスーパーバイザーの視点に焦点を当てる。
- 第9回 心理支援の終結期における中堅のスーパーバイザーの視点に焦点を当てる。
- 第10回 心理社会的アプローチによるスーパービジョン
- 第11回 家族システムズ論によるスーパービジョン
- 第12回 集団支援におけるスーパービジョン
- 第13回 地域支援におけるスーパービジョン
- 第14回 家族・世代間スーパービジョン

〔成績評価〕

試験(20%)、レポート(30%)、小テスト(20%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

テキストや参考文献から、該当する理論や技術について予習・復習することを薦める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートなどで、習得した内容についての確認を行い、適宜に追加、補足を行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「倫理や法令の理解と遵守」「クライアントへの臨床的支援能力」を習得することを目標とする

〔テキスト〕

SBN 978-4-623-04416-0『ソーシャルワークのスーパービジョン』福山和女編著(2005)ミネルヴァ書房 2,940円+税

〔参考文献〕

SBN 978-4-623-04416-0『ソーシャルワークのスーパービジョン』福山和女編著(2005)ミネルヴァ書房 2,940円+税
ISBN 978-4-7724-1193-6 C3011 Lee, Robert E, Craig A. Everett(原著), 福山和女, 石井千賀子, 日本家族研究家族療法学会評議員会(翻訳)『家族療法のスーパーヴィジョンー統合的モデル』金剛出版 (2011)3,990円+税、中村伸一他『説き明かし・私の家族面接初回面接の実際』[DVD]2010 中島映像 46,000円

〔備考〕

出席日数、レポート提出など総合的評価である。
参加態度、意見交換、フィードバックなどの質と量を加味する

学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	
2単位：後期1コマ	1～2年
河上 純子	

〔到達目標〕

スクールカウンセラーとして学校や地域・保護者などからなる子どもを育てるシステムを理解し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について高度な専門的知識や技術の習得、職業を担うための優れた能力を身につけることを目的とする。

〔履修の条件〕

本学大学院総合人間学研究科・臨床心理学専攻修士課程に正現在学する院生のみが履修できる。

学校臨床を目指す大学院生、および公認心理師・臨床心理士の基礎的な知識として学校臨床を学ぼうと志す大学院生。
なお、初回にテキストの分担を決めるため、初回授業への出席と初回時までにテキストの購入を必須とする。

〔講義概要〕

スクールカウンセラーという立場から見える学校のシステム・校務・地域連携・教職員の役割などについて確認する。また不登校・いじめ・家庭の問題・発達障害などの事例を通して、スクールカウンセラーにはどのようなアプローチをとることが要求されているのか、ディスカッションを通して学習する。
講義には教育分野に関わる公認心理師の実践についての内容を含む。
なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 授業の進め方、担当の決定
第2回	学校臨床心理学 理論① 講義とディスカッション
第3回	学校臨床心理学 理論② 講義とディスカッション
第4回	学校臨床心理学 理論③ 講義とディスカッション
第5回	学校臨床心理学 理論④ 講義とディスカッション
第6回	学校臨床心理学 理論⑤ 講義とディスカッション
第7回	学校臨床事例研究① ディスカッション
第8回	学校臨床事例研究② ディスカッション
第9回	学校臨床事例研究③ ディスカッション
第10回	学校臨床事例研究④ ディスカッション
第11回	学校臨床事例研究⑤ ディスカッション
第12回	グループワーク
第13回	グループワーク
第14回	まとめ
第15回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

各自担当した理論・事例についてレジュメを作成し発表を行う。レジュメ発表とディスカッション等への参与の程度、リアクションペーパーなどを総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

自分の担当以外のテキストについても授業当日までに目を通し、関連分野について自分のコメントを用意する。本科目では各授

業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表等について、授業内に適宜口頭にてコメントする。
リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める1.「臨床心理の専門家としての使命と社会的責任」、2.「倫理や法令の理解と遵守」、3.「クライアントへの臨床的支援能力」、4.「他職種との専門家と連携する能力」を修得することを目標とする。

〔テキスト〕

『スクールカウンセリングと発達支援[改訂版]』宮川充司・津村俊充・中西由里・大野木裕明編 ナカニシヤ出版 2018 2640円 ISBN-10 477951178X ISBN-13 978-4779511783

〔参考文献〕

授業時に紹介する。

〔備考〕

「実務経験のある教員の科目」講義の内容やテキストを具体的に理解するため、実務上の経験を適宜教員から補足する。

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

2単位：前期1コマ

1～2年

中村 洸太

〔到達目標〕

産業社会の激変やグローバル化の進展、ニューノーマルそして新型コロナウイルス感染症拡大など、社会の有様は大きく変化しています。加えて超少子高齢化時代となり、多様化が叫ばれる時代に個人の価値観も大きく変化しています。こうした背景をもとに、産業・労働分野に関する理論と支援についての知識と考え方を学び、働く人のストレスの増大からくる心の健康問題、人間関係の希薄さなどによる職場の状況と企業の課題について、講義と演習を交えて理解を深め広い学識を身につけます。

そのうえで、より良い職業人生を送るためのメンタルヘルス対策、キャリア開発、良好なコミュニケーションづくりについて学習することを目的とします。この目的を達成するために、集団・組織や職場・職業に関わる心理学の理論から、個人が組織によって規定される諸影響を学習したうえで、専門とする支援の対象者との良好な関係性を構築できる知識や態度を学びます。

〔履修の条件〕

他者の話に興味・感心をもって他者理解することと、情報や気持ちを聴く一方で、自身の考えや思いを発信する自己表現のための双方向のコミュニケーション・スキルは、実践して身に付くものです。授業内で実施する話し合いは、事例検討やワークコミュニケーション能力を養うことを目的とすることを理解しましょう。

〔講義概要〕

前半は、レジメを中心に講義スタイルで、職場における問題(キャリア形成に関することを含む)に対して必要な心理に関する支援や、組織における人の行動に関する講義をします。後半は、事例演習など、実際の心理支援に関する内容を行なっていきます。授業計画については社会情勢や進行に応じて順番が前後することや、その時期に応じた内容に変更する可能性があることをご容赦ください。事例以外にもディスカッションをしていただくような時間は適宜設けていく予定です。また、講義内容については時事状況や参加者の理解状況等に応じて変更する可能性もあります。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション、産業領域における心理臨床活動(オリエンテーション)
- 第2回 組織と個人
- 第3回 集団とモチベーション
- 第4回 組織とコミュニケーション
- 第5回 ストレス
- 第6回 仕事の安全と職場におけるストレス・ダイバーシティ
- 第7回 キャリア発達とその支援
- 第8回 リーダーシップ
- 第9回 ハラスメント
- 第10回 産業・組織分野の制度と法律
- 第11回 産業領域における心理臨床活動(EAP など)
- 第12回 ストレスチェック制度
- 第13回 休職・復職
- 第14回 職場における連携
- 第15回 最終レポート

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

2回のレポート(第7回時と最終レポート)による評価に加え、講義への参加の態度や各回での課題に対する評価を加えます。また、グループ発表を後半に予定していますので、こちらも課題提出として評価します。欠席3分の1を超えた場合(5回以上)は受験資格を失います。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

講義に対する予習は、授業計画の各項目を自習しておきましょう。復習は、講義配布レジメやノートを整理しておきます。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎授業のフィードバックやレポートのフィードバックは、講義内において行うことを基本としますが、ときには、数回まとめることもあります。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるよう

になることを研鑽することを心がけましょう。専門家としての資格を取得しようとする者は、専門家として、支援する対象者を尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し、遵守姿勢と遵守に必要な実践能力を有することを目指すために、専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけましょう。

【テキスト】

毎回、下記参考文献に基づいたレジメを配布します。また、適宜内容に応じた書籍や論文を紹介していきます。

【参考文献】

・平木典子(著, 編集), 松本桂樹(著, 編集), 野島一彦(監修)「産業・労働分野：理論と支援の展開(公認心理師分野別テキスト5)」2,592円(創元社)ISBN-13: 978-4422116952
・高橋浩・中嶋励子・渡邊祐子(著)・高橋修(編著)「社会人のための産業・組織心理学入門」(産業能率大学出版部)2,592円 ISBN-13: 978-4382056961
その他適宜、授業で紹介いたします。

【備考】

毎回、前回のレジメを参照すること。

心の健康教育に関する理論と実践	
2単位：後期1コマ	1～2年
田副 真美	

【科目補足情報】

公認心理師指定科目である。

【到達目標】

1. 医療・保健、教育、産業・労働、福祉、司法・犯罪の5領域に加え災害における心の健康の理論と実践についての理解
2. 精神疾患および身体疾患、各発達段階に発現する心理的問題の理解
3. チーム医療および他職種共同の理解

【履修の条件】

本学大学院、臨床心理専攻に正規に在学する学生のみ履修できる。

【講義概要】

1. 心理職が医療および様々な領域で働くために必要な健康・医療心理学の概要と心理支援について扱う。
2. 各講義ごとに到達目標を決め、医療・保健、教育、産業・労働、福祉、司法・犯罪の5領域と災害における心の健康教育と理論と実践について院生が担当し発表し、その内容についてディスカッションを行う。
3. 医師やコメディカルゲストスピーカーによる医療現場における心の健康教育の実践に関する講義を予定している。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
心の健康とは
第2回 健康心理学とは

- 健康心理学のアセスメントと支援①
第3回 健康心理学のアセスメントと支援②
第4回 ストレスとストレスマネジメント
第5回 心身症概論
第6回 他職種共同と連携
第7回 心の健康教育の実際①(ゲストスピーカー)
第8回 グループ発表
心の健康教育が求められる領域：医療・保険領域における実践
第9回 グループ発表
心の健康教育が求められる領域：学校教育域における実践
第10回 グループ発表
心の健康教育が求められる領域：産業・労働領域における実践
第11回 グループ発表
心の健康教育が求められる領域：福祉領域における実践
第12回 グループ発表
心の健康教育が求められる領域：司法・犯罪領域における実践
第13回 グループ発表
心の健康教育が求められる領域：災害と心の健康教育
第14回 心の健康教育の実際②(ゲストスピーカー)
まとめ
第15回 期末レポート
第16回 1. 心の健康教育に関する理論 2. 心の健康教育に関する実践

【成績評価】

試験(0%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(70%)

【成績評価(備考)】

授業への積極的な態度
グループ発表の資料およびプレゼンテーションの内容

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

発表やレポートについて、授業内で適宜口頭でコメントする

【ディプロマポリシーとの関連性】

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「臨床心理の専門家としての使命と社会的責任」、「倫理や法令の理解と遵守」、「クライアントへの臨床的支援能力」、「他職種の専門家と連携する能力」を修得することを目指す。

【テキスト】

必要な資料を適宜配布する

〔参考文献〕

宮脇稔・大野太郎・松野俊夫・藤本豊(編)「公認心理師カリキュラム準拠健康・医療心理学」第2版 医歯薬出版株式会社、3,000円

〔備考〕

「実践経験のある教員による科目」公認心理師および臨床心理士として、特に医療領域等における心理臨床経験を活かして心の健康教育に関する実践について指導する。

キリスト教倫理学特論

2単位：前期1コマ

1～2年

石居 基夫

〔科目補足情報〕

キリスト教福祉といのちの倫理

〔到達目標〕

聖書とキリスト教の福祉的働きの実践と研究し、対人援助の専門職に必要な人間理解と倫理の基本、特に、いのちと尊厳を守るための包括的な人間理解におけるスピリチュアルな視点について学ぶ。

〔履修の条件〕

とくになし

〔講義概要〕

キリスト教の人間理解の本質、特に対人援助に必要な包括的な人間理解におけるスピリチュアリティについて、聖書と福祉的働きの実践や思想の歴史に学んでいく。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 キリスト教の人間理解の基礎
- 第3回 聖書における対人援助①
- 第4回 聖書における対人援助②
- 第5回 キリスト教と対人援助(実践と思想)①
- 第6回 キリスト教と対人援助(実践と思想)②
- 第7回 いのちの倫理とスピリチュアルケア①
- 第8回 いのちの倫理とスピリチュアルケア②
- 第9回 いのちの倫理の諸課題①
- 第10回 いのちの倫理の諸課題②
- 第11回 実践研究①
- 第12回 実践研究②
- 第13回 実践研究③
- 第14回 まとめ
- 第15回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

課題となる聖書や文献について事前に学び、一人ひとりが関係

する対人援助の現場での実践と経験に基づいてテーマについての予習・復習を行い、授業参加に備える。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各授業におけるフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「倫理や法令の理解と遵守」「クライアントへの臨床的支援能力」「他職種の専門家と連携する能力」を修得することを目標とする。

〔テキスト〕

藤井美和他編著『生命倫理における宗教とスピリチュアリティ』見洋書房、ISBN：9784771021242

〔参考文献〕

その都度、授業内で紹介するが、たとえば阿部志郎『福祉の哲学』(誠信書房)、糸賀一雄『福祉の思想』(NHK出版)、熊澤義宣『キリスト教死生学論集』(教文館)など。